

| | | | |
|-----------------------|--|---|-----------------------|
| 授業科目名: 情報社会・情報倫理 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:大久保 紀一郎 中橋 雄 |
| | | | 担当形態:複数 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 情報社会(職業に関する内容を含む。)・情報倫理 | | |
| 授業の概要 | 社会の情報化やそこで必要になる情報倫理について学び、情報化社会における的確な進路指導や職業指導ができるようにする。とくに、本授業を通して情報社会の背景やその方向性、そこで求められる情報倫理を含めた情報活用能力を育成する重要性やその方法に加え、情報化社会における職業観や労働観の形成の重要性やその方法について学ぶことで、教職に就こうとする学生のそれらを醸成する。 | | |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会の情報化、求められる情報倫理やその他の能力の変遷について理解できる。 ・情報化社会・Society 5.0における生徒の職業指導の意義と可能性について考えることができる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーション, 情報化社会とSociety5.0。(大久保 紀一郎) | |
| | 2 | 情報化とそこで求められるリテラシー(大久保 紀一郎) | |
| | 3 | 情報技術の発展と職業観の変遷(大久保 紀一郎、中橋 雄) | |
| | 4 | ネット情報とその信頼性(大久保 紀一郎) | |
| | 5 | ネット時代の楽曲制作(大久保 紀一郎) | |
| | 6 | 情報化と学校教育(大久保 紀一郎) | |
| | 7 | 産業の情報化(大久保 紀一郎、中橋 雄) | |
| | 8 | ビジネスとビッグデータ(大久保 紀一郎) | |
| | 9 | ビジネスにおけるDX(大久保 紀一郎) | |
| | 10 | 生成AIによる変化(大久保 紀一郎) | |
| | 11 | 働き方を考える1 情報収集(大久保 紀一郎) | |
| | 12 | 働き方を考える2 発表準備(主に活用するテクノロジーや情報化の観点を定める) (大久保 紀一郎) | |
| | 13 | 働き方を考える3 発表準備(テクノロジーの実際の活用方法や、参加者に体験してもらうワークの準備)(大久保 紀一郎) | |
| | 14 | 働き方を考える3 成果発表会(大久保 紀一郎) | |
| | 15 | 情報社会・情報倫理のこれから(大久保 紀一郎) | |
| テキスト・参考書 | 特定のテキストは使用しない。必要な資料は授業ごとに配付する。 参考書 (文部科学省)「高等学校学習指導要領解説 情報編」 (文部科学省)「高等学校学習指導要領解説 総則編」 | | |
| 自学自習についての情報 | 予習については適宜指示をするので、指定された事柄についてあらかじめ調べた上で授業に参加する。 | | |
| 授業の形式 | 講義等の情報を基に、受講者が情報を収集、整理分析し考察を深める形で授業を進める。毎回情報端末(ノートパソコン)とクラウドシステム(Googleクラスルーム)を使用する。 | | |
| アクティブラーニングに関する情報 | グループワーク、グループディスカッションの形をとるため、学修への参加は自身の学修のみではなく、グループのメンバーの学修成果にも関係するため、進んで学修する姿勢で授業に参加する。 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 毎回のミニツツペーパー40% 授業中の課題30% レポート30% | | |
| その他 | 本講義では情報端末(ノートパソコン)とクラウドシステム(Googleクラスルーム)を毎回使用する。 | | |

| | | | |
|--------------------------|---|-------------------------------|------------------------|
| 授業科目名: 情報社会とセキュリティ | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:多田 知正 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 情報社会(職業に関する内容を含む)・情報倫理 | | |
| 授業の概要 | 情報社会におけるさまざまな危険とそれを回避するためのセキュリティ技術を学ぶ。 | | |
| 授業の到達目標 | 情報社会において知らないうちに被害にあったり、またむやみに恐れるあまりその利便性を享受できないといったことがないよう、情報社会を生きていくために必要な知識を持ち、インターネットの適正な利用方法を身につける。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーション | |
| | 2 | ポートスキャン, パスワードクラック | |
| | 3 | バッファオーバーフロー | |
| | 4 | クロスサイトスクリプティング | |
| | 5 | その他の攻撃手法(CSRF, SQLインジェクションなど) | |
| | 6 | ネットワークの盗聴手法 | |
| | 7 | 暗号化手法 | |
| | 8 | 電子署名, PKI(公開鍵基盤) | |
| | 9 | SSL | |
| | 10 | ファイアウォール | |
| | 11 | 認証手法 | |
| | 12 | 無線LANのセキュリティ | |
| | 13 | コンピュータウイルス | |
| | 14 | VPN, 検疫ネットワーク | |
| | 15 | シングルサインオン, 電子透かし | |
| | 試験 | | |
| テキスト・参考書 | テキストは使用しない。資料は必要に応じてGoogle Classroomで配布する。 参考書: 図解入門 よくわかる 最新 情報セキュリティの基本と仕組み[第3版] 相戸浩志(著), 秀和システム, ASIN:B00O8GIJ28 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 試験(100%) 原則として、特別な理由なく4回以上欠席した場合は評価の対象としない。 | | |

| | | | |
|--------------------------|---|--------------------|------------------------|
| 授業科目名: コンピュータ・情報処理 I | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:赤川 佳穂 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 コンピュータ・情報処理 | | |
| 授業の概要 | Pythonは、シンプルで読みやすい文法と豊富なライブラリを持つ、初心者からプロフェッショナルまで幅広く利用されているプログラミング言語である。この授業では、Pythonの基本的な構文や使い方を学び、実際にプログラムを作成するスキルを身につけることを目指す。 | | |
| 授業の到達目標 | プログラミングの基礎概念とPythonの基本文法を理解し、実際に自分でプログラムを書く力を身につける。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーション | |
| | 2 | 変数とデータ型 | |
| | 3 | コンテナデータ型 | |
| | 4 | 条件分岐(1)if文 | |
| | 5 | 条件分岐(2)if文のバリエーション | |
| | 6 | 繰り返し(1)while文 | |
| | 7 | 繰り返し(2)for文 | |
| | 8 | 関数(1)基本 | |
| | 9 | 関数(2)引数と戻り値 | |
| | 10 | 関数(3)応用 | |
| | 11 | オブジェクト(1)基本構造 | |
| | 12 | オブジェクト(2)クラスと型 | |
| | 13 | ファイル入出力 | |
| | 14 | モジュールの利用 | |
| | 15 | まとめ | |
| テキスト・参考書 | テキスト(必須) ・スッキリわかるPython入門 第2版、国本大悟、須藤秋良 著、インプレス | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 提出課題100% | | |

| | | | |
|--------------------------|--|---|------------------------|
| 授業科目名: コンピュータ・情報処理Ⅱ | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:赤川 佳穂 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 コンピュータ・情報処理 | | |
| 授業の概要 | この授業では、Pythonのプログラミングを通して、数値計算手法の実践に必要な理論とプログラミングのスキルを学ぶ。 | | |
| 授業の到達目標 | 数値計算法の理論を理解し、Pythonで数値計算のプログラムを書く力を身につける。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | Pythonプログラミングの基礎 | |
| | 2 | Pythonでの数値計算環境の準備 | |
| | 3 | コンピュータの数値誤差 | |
| | 4 | 代数方程式(1)2分法のアルゴリズムとコンピュータの活用 | |
| | 5 | 代数方程式(2)ニュートン法のアルゴリズムとコンピュータの活用 | |
| | 6 | 線形代数計算(1)行列の演算のアルゴリズムとコンピュータの活用 | |
| | 7 | 線形代数計算(2)ガウスの消去法のアルゴリズムとコンピュータの活用 | |
| | 8 | 固有値を求めるのアルゴリズムとコンピュータの活用 | |
| | 9 | 関数の近似のアルゴリズムとコンピュータの活用 | |
| | 10 | 数値積分(1)区分求積法と台形公式による求積のアルゴリズムとコンピュータの活用 | |
| | 11 | 数値積分(2)シンプソンの公式による求積のアルゴリズムとコンピュータの活用 | |
| | 12 | フーリエ変換のアルゴリズムとコンピュータの活用 | |
| | 13 | 常微分方程式(1)質点の運動のコンピュータによる解析 | |
| | 14 | 常微分方程式(2)初期値問題のコンピュータによる解析 | |
| | | 15 まとめ | |
| | | | |
| テキスト・参考書 | テキスト(必須) ・Pythonによる数値計算入門、河村哲也、桑名杏奈 著、朝倉書店 参考書 ・スッキリわかるPython入門 第2版、国本大悟、須藤秋良 著、インプレス | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 提出課題100% | | |

| | | | |
|--------------------------|---|---------------------------------|------------------------|
| 授業科目名: プログラミング基礎 I | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:赤川 佳穂 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 コンピュータ・情報処理 | | |
| 授業の概要 | C言語は既に古典的な言語になりつつあるが、まだよく使用されており、より高度なプログラミング言語を学習するための準備として習熟しておくことが必須の言語となっている。本授業ではC言語のプログラムのコンパイルの仕方と実行方法、C言語の文法の基礎の講義と、その講義した文法で記述できる範囲でのプログラミングの演習を行う。また基本的な数値計算のプログラムについて扱う。 | | |
| 授業の到達目標 | C言語の文法の基礎を学習し、その学習した範囲で他人の書いたプログラムを理解できるようにし、さらにプログラムを自分の力で書くことができるようにする。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーション C言語のプログラムのコンパイルと実行 | |
| | 2 | 変数 | |
| | 3 | 演算と型 | |
| | 4 | 条件分岐(1)if文 | |
| | 5 | 条件分岐(2)swich文 | |
| | 6 | 論理演算子 | |
| | 7 | 繰り返し処理(1)do文とwhile文 | |
| | 8 | 繰り返し処理(2)for文 | |
| | 9 | 繰り返し処理(3)多重ループ | |
| | 10 | 配列と多次元配列 | |
| | 11 | 関数(1)基本 | |
| | 12 | 関数(2)配列の受け渡しと有効範囲と記憶領域 | |
| | 13 | 数値計算法(1)平方根 | |
| | 14 | 数値計算法(2)平面図形の求積 | |
| | 15 | 数値計算法(3)連立1次方程式 | |
| テキスト・参考書 | テキスト(必須) ・新・明解C言語 入門編 第2版、柴田望洋 著、SBクリエイティブ | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 提出課題100% | | |

| | | | |
|--------------------------|---|---------------------------------|------------------------|
| 授業科目名: プログラミング基礎Ⅱ | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:赤川 佳穂 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 コンピュータ・情報処理 | | |
| 授業の概要 | C言語は既に古典的な言語になりつつあるが、まだよく使用されており、より高度なプログラミング言語を学習するための準備として習熟しておくことが必須の言語となっている。本授業では「プログラミング基礎I」の続きとして、さらにC言語の文法について深める。講義した文法で記述できる範囲でのプログラミングの演習を行う。また基本的な数値計算のプログラムについて扱う。 | | |
| 授業の到達目標 | C言語の文法の基礎を学習し、その学習した範囲で他人の書いたプログラムを理解できるようにし、さらにプログラムを自分の力で書くことができるようにする。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーション 基礎的なアルゴリズムとフローチャート | |
| | 2 | 関数形式マクロ | |
| | 3 | ソートと列挙体 | |
| | 4 | 再帰的な関数 | |
| | 5 | 入出力と文字 | |
| | 6 | 文字列 | |
| | 7 | ポインタ(1)基本 | |
| | 8 | ポインタ(2)関数と配列 | |
| | 9 | ポインタ(3)文字列 | |
| | 10 | 構造体 | |
| | 11 | ファイル処理 | |
| | 12 | 数値計算法(1)代数方程式 | |
| | 13 | 数値計算法(2)数値積分 | |
| | 14 | 数値計算法(3)常微分方程式 | |
| | 15 | まとめ | |
| テキスト・参考書 | テキスト(必須) ・新・明解C言語 入門編 第2版、柴田望洋 著、SBクリエイティブ 参考書 ・C言語による数値計算入門:解法・アルゴリズム・プログラム、皆本晃弥 著、サイエンス社 ・Cによる数値計算法入門(第2版)新装版、堀之内總一、酒井幸吉、榎園茂 共著、森北出版 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 提出課題100% | | |

| | | | |
|--------------------------|---|--------------|-----------------------|
| 授業科目名: 情報システム論 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:飯間 等 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 情報システム | | |
| 授業の概要 | 情報技術や知能技術の急速な発展に伴い、社会における情報システムの重要性はますます増している。本授業では、情報システムの基本的な概念、構成要素、設計、技術について学ぶ。 | | |
| 授業の到達目標 | 1.情報システムの基本的な概念や構成要素を理解して説明することができる。 2.論理回路を理解して設計することができる。 3.情報システムの技術を理解して、技術に関する計算をすることができる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | コンピュータとその利用 | |
| | 2 | データ表現 | |
| | 3 | 論理回路 | |
| | 4 | プロセッサ | |
| | 5 | 記憶装置 | |
| | 6 | プログラミング言語 | |
| | 7 | アルゴリズム | |
| | 8 | オペレーティングシステム | |
| | 9 | 符号化 | |
| | 10 | 最適化 | |
| | 11 | 遺伝的アルゴリズム | |
| | 12 | ニューラルネットワーク | |
| | 13 | 強化学習 | |
| | 14 | 生成AI | |
| | 15 | まとめ | |
| | 試験 | | |
| テキスト・参考書 | [テキスト] 資料を配布する。 [参考書] 図解コンピュータ概論(オーム社) | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 期末試験70%、演習30% | | |

| | | | |
|--------------------------|---|------------|------------------------|
| 授業科目名: 情報通信ネットワーク | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:多田 知正 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 情報通信ネットワーク | | |
| 授業の概要 | インターネットの基本的なしくみおよびインターネットにおける代表的なプロトコルについて解説する。 | | |
| 授業の到達目標 | インターネットの世界では、英語の略語やカタカナ言葉が氾濫しているが、これらの言葉をただ単に暗記するのではなく、その意味と役割をきちんと理解し、「インターネットのすごさ」について説明することができる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | ガイダンス | |
| | 2 | 情報伝達の基本 | |
| | 3 | パケット交換 | |
| | 4 | ゲートウェイとルータ | |
| | 5 | IPアドレス | |
| | 6 | IPパケット | |
| | 7 | TCP再送 | |
| | 8 | TCPフロー制御 | |
| | 9 | DNS | |
| | 10 | DHCP | |
| | 11 | WWWのしくみ | |
| | 12 | メールのしくみ | |
| | 13 | パケットヘッダ | |
| | 14 | 誤り検出 | |
| | 15 | 文字コード | |
| | 試験 | | |
| テキスト・参考書 | テキストは使用しない。資料は必要に応じてGoogle Classroomで配布する。 参考書:ネットワークはなぜつながるのか 第2版 戸根 勤(著), 日経BP, ISBN:978-4822283117 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 試験(100%) 原則として、特別な理由なく4回以上欠席した場合は評価の対象としない。 | | |

| | | | |
|--------------------------|---|--------------|------------------------|
| 授業科目名: 情報ネットワーク論 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:多田 知正 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 情報通信ネットワーク | | |
| 授業の概要 | 「情報通信ネットワーク」の内容を前提として、インターネットを構成するプロトコルについてより詳しい解説を行うとともに、情報通信に関連する技術についても述べる。 | | |
| 授業の到達目標 | インターネットの仕組みについてその全体像を理解し、わかりやすく伝えることができる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | ガイダンス | |
| | 2 | EthernetとARP | |
| | 3 | スイッチングハブとルータ | |
| | 4 | 内部ルーティング | |
| | 5 | 外部ルーティング | |
| | 6 | IPv6 | |
| | 7 | TCPコネクション | |
| | 8 | 無線LAN | |
| | 9 | VLAN | |
| | 10 | VPN | |
| | 11 | IP電話 | |
| | 12 | P2P | |
| | 13 | 情報の圧縮(可逆圧縮) | |
| | 14 | 情報の圧縮(非可逆圧縮) | |
| | 15 | アナログとデジタル | |
| | 試験 | | |
| テキスト・参考書 | テキストは使用しない。資料は必要に応じてGoogle Classroomで配布する。 参考書:ネットワークはなぜつながるのか 第2版 戸根 勤(著), 日経BP, ISBN:978-4822283117 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 試験(100%) 原則として、特別な理由なく4回以上欠席した場合は評価の対象としない。 | | |

| | | | |
|-----------------------|---|---------------------------|-----------------------|
| 授業科目名: マルチメディア表現 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:中橋 雄 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 マルチメディア表現・マルチメディア技術 | | |
| 授業の概要 | この授業の目標は、メディアの意味と特性を理解した上で、マルチメディア表現の受け止め方や表現・発信の仕方について説明できるようになることです。文字・音声・静止画・動画などのメディアをデジタル技術によって統合的に扱うことができ、インタラクティブ性をもつメディアのことをマルチメディアといいます。技術の進化とともにマルチメディアのあり方が変化する中で、どのような能力が求められることになるか学びます。 | | |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> マルチメディア表現を構成する要素について説明できる。 マルチメディア表現の特性について説明できる。 マルチメディア表現が社会に与える影響と望ましいあり方について説明できる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | なぜマルチメディア表現について学ぶのか・ガイダンス | |
| | 2 | 現代社会におけるメディアと人間の関わり | |
| | 3 | 新しいメディアの登場とメディア・リテラシー | |
| | 4 | メディアの特性 | |
| | 5 | メディアは送り手の意図によって編集される | |
| | 6 | メディアは受け手を意識して編集される | |
| | 7 | フェイクニュース | |
| | 8 | 歴史的な変遷 | |
| | 9 | ソーシャルメディア | |
| | 10 | 現代社会に求められるリテラシー | |
| | 11 | 統計調査とメディア表現 | |
| | 12 | ステレオタイプ | |
| | 13 | AIとメディア | |
| | 14 | メディアについて学ぶ教材 | |
| 15 | まとめと展望 | | |
| テキスト・参考書 | 教科書:中橋 雄『【改訂版】メディア・リテラシー論 ソーシャルメディア時代のメディア教育』北樹出版、2021年 参考書:久保田賢一(編集),中橋 雄(著),岩崎千晶(著)『映像メディアのつくり方:情報発信者のための制作ワークブック』北大路書房、2008年 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 毎回提示する課題への回答:70% 他の学習者へのコメント:30% ※期末試験は実施しません。 | | |

| | | | |
|-----------------------|--|---------------------------|-----------------------|
| 授業科目名: マルチメディア技術 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:中橋 雄 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 マルチメディア表現・マルチメディア技術 | | |
| 授業の概要 | この授業の目標は、マルチメディアの技術的な側面について説明できるようになることです。文字・音声・静止画・動画などのメディアをデジタル技術によって統合的に扱うことができ、インタラクティブ性をもつメディアのことをマルチメディアといいます。マルチメディアを実現させている仕組みの理解や社会的な影響力、具体的な活用方法などについて学びます。 | | |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> マルチメディア技術について説明できる。 マルチメディア技術を実現させる仕組みについて説明できる。 マルチメディア技術が社会に与える影響と望ましいあり方について説明できる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | なぜマルチメディア技術について学ぶのか・ガイダンス | |
| | 2 | ヒューマンコンピュータインタラクション | |
| | 3 | マルチメディアを構成する要素 | |
| | 4 | 文字による表現技術 | |
| | 5 | 音声による表現技術 | |
| | 6 | 静止画による表現技術 | |
| | 7 | 動画による表現技術 | |
| | 8 | マルチメディアコンテンツを扱うハードウェア | |
| | 9 | マルチメディアコンテンツを扱うソフトウェア | |
| | 10 | インターネットの仕組みと表現 | |
| | 11 | マルチメディアとライフスタイル | |
| | 12 | 社会に位置づくマルチメディア | |
| | 13 | マルチメディアとAI | |
| | 14 | 知的財産権とセキュリティ | |
| | 15 | まとめと展望 | |
| テキスト・参考書 | 教科書:実践マルチメディア編集委員会『実践マルチメディア[第二版]』CG-ARTS、2024年 参考書:久保田賢一(編集),中橋 雄(著),岩崎千晶(著)『映像メディアのつくり方:情報発信者のための制作ワークブック』北大路書房、2008年 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 毎回提示する課題への回答:70% 他の学習者へのコメント:30% ※期末試験は実施しません。 | | |

| | | | |
|-----------------------|---|------------------------|-----------------------|
| 授業科目名: マルチメディア演習 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:中橋 雄 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 マルチメディア表現・マルチメディア技術 | | |
| 授業の概要 | この授業の目標は、マルチメディア技術を活かした表現ができるようになることです。文字・音声・静止画・動画などのメディアをデジタル技術によって統合的に扱うことができ、インタラクティブ性をもつメディアのことをマルチメディアといいます。実際にマルチメディアコンテンツを制作することを通じて、これからの時代に必要とされるメディア・リテラシーを身につけます。 | | |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> マルチメディア技術の特徴について説明することができる。 マルチメディア表現の特徴について説明することができる。 マルチメディア作品を制作することができる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | マルチメディアの理解と作品の構想・ガイダンス | |
| | 2 | アプリケーションの基本操作 | |
| | 3 | メディア制作(文字) | |
| | 4 | メディア制作(音声) | |
| | 5 | メディア制作(静止画) | |
| | 6 | メディア制作(動画) | |
| | 7 | 統合とインタラクティブ性 | |
| | 8 | 既存のマルチメディア作品分析 | |
| | 9 | 企画書の作成 | |
| | 10 | 企画書の相互評価 | |
| | 11 | コンテンツの制作 | |
| | 12 | コンテンツの形成的評価 | |
| | 13 | コンテンツの改善 | |
| | 14 | 発表会 | |
| 15 | まとめと展望 | | |
| テキスト・参考書 | 教科書:実践マルチメディア編集委員会『実践マルチメディア[第二版]』CG-ARTS、2024年 参考書:久保田賢一(編集),中橋 雄(著),岩崎千晶(著)『映像メディアのつくり方:情報発信者のための制作ワークブック』北大路書房、2008年 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 毎回提示する課題への回答:70% 他の学習者へのコメント:30% ※期末試験は実施しません。 | | |

| | | | |
|-----------------------|--|--|-----------------------|
| 授業科目名: 中等情報科教育 I | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:中橋 雄 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。) | | |
| 授業の概要 | この授業の目標は、学習指導要領に示されている高等学校情報科の目標や内容を理解することです。情報科全体の目標や構造を把握した上で、具体的な学習内容を確認しながら、授業設計の方法、情報通信技術の活用を含む指導方法、評価方法、教材研究の方法などについて学びます。 | | |
| 授業の到達目標 | この授業の目標は、学習指導要領に示されている高等学校情報科の目標や内容を理解することです。具体的な学習到達目標は、以下の通りです。 ・学習指導要領における情報科の目標・内容・全体構造を説明できる。 ・情報科の学習内容について指導上の留意点を説明できる。 ・情報科における評価の考え方を説明できる。 ・情報科に関する学問領域を踏まえて教材研究を行うことができる。 ・情報科に関する発展的な学習内容を探究し、学習指導への位置付けを提案できる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | 情報科教育法 I の概要 | |
| | 2 | 情報科の成立過程と科目編成 | |
| | 3 | 共通教科情報科の目標・内容・取扱い | |
| | 4 | 指導法の検討「情報 I : 情報社会の問題解決」 | |
| | 5 | 指導法の検討「情報 I : コミュニケーションと情報デザイン」 | |
| | 6 | 指導法の検討「情報 I : コンピュータとプログラミング」 | |
| | 7 | 指導法の検討「情報 I : 情報通信ネットワークとデータの活用」 | |
| | 8 | 指導法の検討「情報 II : 情報社会の進展と情報技術」 | |
| | 9 | 指導法の検討「情報 II : コミュニケーションとコンテンツ」 | |
| | 10 | 指導法の検討「情報 II : 情報とデータサイエンス」 | |
| | 11 | 指導法の検討「情報 II : 情報システムとプログラミング」 | |
| | 12 | 指導法の検討「情報 II : 情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究」 | |
| | 13 | 専門教科情報科の目標・内容・取扱い | |
| | 14 | 指導案と情報通信技術の活用 | |
| 15 | まとめと展望 | | |
| テキスト・参考書 | 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 情報編』(2018年、文部科学省) 『高等学校情報科「情報 I」教員研修用教材』(2019年、文部科学省) 『高等学校情報科「情報 II」教員研修用教材』(2020年、文部科学省) | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 毎回授業で提出する課題の回答内容(70%)、他者の考えに対するコメント(30%) ※期末試験は実施しません。 | | |

| | | | |
|--------------------------|--|--------------------------------|-----------------------|
| 授業科目名: 中等情報科教育Ⅱ | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:中橋 雄 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報) | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。) | | |
| 授業の概要 | この授業の目標は、高等学校情報科に関する学習指導理論を理解し、授業設計・授業実践・授業改善ができるようになることです。教科書の内容を踏まえ、具体的な授業場面を想定して指導案・資料・ワークシートなどを作成した上で、模擬授業を行うことを通じて実践力を身につけます。 | | |
| 授業の到達目標 | この授業の目標は、高等学校情報科に関する学習指導理論を理解し、授業設計・授業実践・授業改善ができるようになることです。具体的な学習到達目標は、以下の通りです。 ・学習者の実態を踏まえ授業設計を行う重要性について説明できる。 ・教科「情報」における情報機器及び教材の効果的な活用法について説明できる。 ・指導法に留意して授業設計を行い、学習指導案を作成できる。 ・模擬授業の経験を活かし、授業を改善しようとすることができる。 ・教科「情報」における実践研究の動向を知り、授業改善に活かそうとすることができる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | 情報科教育法Ⅱの概要 | |
| | 2 | 情報科の目標・内容・取扱い | |
| | 3 | 情報科の指導法(主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善) | |
| | 4 | 情報科の指導法(情報通信技術及び教材の活用) | |
| | 5 | 情報科の指導案と評価 | |
| | 6 | 模擬授業「情報社会の問題解決」 | |
| | 7 | 模擬授業「情報モラルとセキュリティ」 | |
| | 8 | 模擬授業「メディアとコミュニケーション」 | |
| | 9 | 模擬授業「情報デザインとコンテンツ」 | |
| | 10 | 模擬授業「コンピュータの仕組みと情報システム」 | |
| | 11 | 模擬授業「プログラミング」 | |
| | 12 | 模擬授業「情報通信ネットワーク」 | |
| | 13 | 模擬授業「データの活用とデータサイエンス」 | |
| | 14 | 模擬授業の相互評価・実践研究と授業改善 | |
| | 15 | まとめと展望 | |
| テキスト・参考書 | 黒上晴夫・堀田龍也・村井純『文部科学省検定済教科書 高等学校情報科用「情報Ⅰ」』日本 文教出版 2022年 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 情報編』(2018年、文部科学省) | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 毎回授業で提出する課題の回答内容(70%)、他者の考えに対するコメント(30%) ※期末試験 は実施しません。 | | |

| | | | |
|-----------------------|---|----------------------------|------------------------------|
| 授業科目名: 公立学校等訪問演習 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:1単位 | 担当教員名:市田 克利 担当形態:クラス分け・単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| 授業の概要 | 京都府内及び京都市内の公立学校(幼稚園、小学校、中学校、高等学校)を訪問し、多様な教育の実際やそこで学ぶ子どもたちにふれることにより、教育に対する基礎的な認識を深め、教職への意欲をもつ。 | | |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校現場等で行われている具体的な教育実践にふれ、多様な教育の場があることを理解する。 2. 発達段階に応じて、ひとりひとりを大切にされた教育に取り組む教育関係者の姿にふれ、教職の意義について考察することができる。 3. 実地教育科目を体系的に学ぶ意義を理解し、教職に就くことの意味についての自覚を深め、学習する意欲と態度をもつ。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | 全体オリエンテーション(訪問時の基本姿勢の確認など) | |
| | 2 | 専攻オリエンテーション | |
| | 3 | 学校訪問(幼稚園、小学校)の事前学習 | |
| | 4 | 学校訪問(幼稚園、小学校) 4時間以上 | |
| | 5 | 学校訪問(幼稚園、小学校)の振り返り学習 | |
| | 6 | 学校訪問(中学校、高等学校)の事前学習 | |
| | 7 | 学校訪問(中学校、高等学校) 4時間以上 | |
| | 8 | 学校訪問(中学校、高等学校)の振り返り学習 | |
| | 9 | | |
| | 10 | | |
| | 11 | | |
| | 12 | | |
| | 13 | | |
| | 14 | | |
| | 15 | | |
| テキスト・参考書 | 〈テキスト〉小学校・中学校・高等学校学習指導要領、幼稚園教育要領(最新版) | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 授業科目の性質上、全回出席を原則とする。出席及びレポート内容で評価する。「合・否」による判定。 | | |

| | | | |
|--------------------------|--|------------------------|------------------------|
| 授業科目名: 附属学校参加実習 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:1単位 | 担当教員名:市田 克利 担当形態:単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| 授業の概要 | 3回生時に主免・基礎免実習を行う附属学校園において、今年度予定されている行事等に補助者として参加する。 | | |
| 授業の到達目標 | <p>幼児・児童・生徒とともに過ごす喜びを感じ取ることができる。 教育にあたることの難しさを感じ取ることができる。 主免・基礎免実習につなげることができるよう、参加先の学校の取り組みや児童の様子について理解を深める。</p> | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | 事前指導－全体ガイダンス | |
| | 2 | 事前指導－附属学校別ガイダンス | |
| | 3 | 遠足引率補助(第3回～第8回は行事等の一例) | |
| | 4 | クラブ活動補助 | |
| | 5 | 運動会運営補助 | |
| | 6 | 授業参観、実習補助等 | |
| | 7 | 水泳指導補助 | |
| | 8 | 雪遊び引率、指導補助 | |
| | 9 | | |
| | 10 | | |
| | 11 | | |
| | 12 | | |
| | 13 | | |
| | 14 | | |
| | 15 | | |
| テキスト・参考書 | テキスト:附属学校参加実習ハンドブック(本学作成) | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 授業参加への積極性、提出された冊子およびまとめレポートに基づき、総合的に判定する。 | | |

| | | | |
|-----------------------|---|----------------------------|------------------------------|
| 授業科目名: 介護等体験事前教育 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:1単位 | 担当教員名:丸山 啓史 担当形態:クラス分け・単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| 授業の概要 | <p>1. 本授業は「介護等体験」の事前教育のために設置された必修科目で、高齢者、障害児・者の教育や福祉、介護に関する内容で構成されている。</p> <p>2. 授業計画に示されたそれぞれの内容については、本学教員のほか、学外の専門家(実践家)が担当し、介護等体験の実際に則した内容となっている。</p> <p>3. 講義を基本とするが、介護等体験で必要となる車椅子の操作については実習を行う。</p> | | |
| 授業の到達目標 | <p>1. 「介護等体験」の意義を理解し、実習の目的意識をもつことができる。</p> <p>2. 「障害」と「福祉」について、基本的な考え方を理解することができる。</p> <p>3. 社会福祉施設と特別支援学校について、実習に必要な基本的事項が理解できる。</p> <p>4. 車椅子のもつ機能や社会的役割を理解し、車椅子を安全に操作して介助することができる。</p> | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーション、障害児者の理解と関わりーその視点 | |
| | 2 | 日本の福祉政策と制度について | |
| | 3 | 高齢者の心身機能とその援助について | |
| | 4 | 高齢者施設と介護について | |
| | 5 | 身体障害とバリアフリー | |
| | 6 | 車椅子体験実習 | |
| | 7 | 特別支援教育の理念と実際 | |
| | 8 | レポート作成、まとめと実習に向けての心得・諸注意 | |
| | 9 | | |
| | 10 | | |
| | 11 | | |
| | 12 | | |
| | 13 | | |
| | 14 | | |
| | 15 | | |
| テキスト・参考書 | テキスト:介護等体験の手引き・ノート(本学作成) | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 参加状況とレポートをもとに、総合的に判定する。 「合・否」による判定。 | | |

| | | | |
|-----------------------|--|-------------------------------------|----------------------|
| 授業科目名: 人権教育論 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名: 中村 瑛仁、轟 蕙菁 |
| | | | 担当形態:クラス分け・単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| 授業の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育は様々な立場の子どもの教育機会を保障するため、また人々が自由に社会参加できる市民社会をつくるために重要な教育実践です。 ・本授業では人権教育の基本的な事項を学びながら、教員として身につけておくべき人権教育のポイントや教育実践の実例を学んでいきます。 | | |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の基本的な概念について、実例をあげながら説明することができる。 ・子どもの人権が配慮された学校づくりについて、その特徴を整理することができる。 ・子どもの人権が配慮された学校教育のあり方について、自分なりの意見や考えを提示できる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーション - 人権教育とは？ | |
| | 2 | ジェンダーと教育1(教育課題と背景) | |
| | 3 | ジェンダーと教育2(支援と教育実践) | |
| | 4 | 貧困家庭の子どもと教育1(教育課題と背景) | |
| | 5 | 貧困家庭の子どもと教育2(支援と教育実践) | |
| | 6 | 被差別部落の子どもと教育1(教育課題と背景) | |
| | 7 | 被差別部落の子どもと教育2(支援と教育実践) | |
| | 8 | 人権教育と学校づくり-中間まとめ | |
| | 9 | 外国にルーツのある子どもと教育1(ニューカマーの子どもたちの教育課題) | |
| | 10 | 外国にルーツのある子どもと教育2(ニューカマーの子どもたちへの支援) | |
| | 11 | 外国にルーツのある子どもと教育3(オールドカマーの子どもたち) | |
| | 12 | 障がいのある子どもと教育1(教育課題と背景) | |
| | 13 | 障がいのある子どもと教育2(支援と教育実践) | |
| | 14 | セクシャルマイノリティの子どもと教育 | |
| | 15 | 人権教育とインクルーシブな学校・社会—まとめ | |
| テキスト・参考書 | <p>テキストの指定はない。参考書は下記の通り。</p> <p>神村沙織・森実編、2019『人権教育への招待:ダイバーシティの未来を拓く』解放出版社。</p> <p>森実、2013『知っていますか？人権教育一問一答(第2版)』解放出版社。</p> <p>中野睦夫・中尾健次・池田博・森実2000『人権教育を開く:同和教育への招待』解放出版社。</p> | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 中間レポート(40%)、期末レポート(40%)、授業への参加度(20%)、で評価します(5回以上の欠席は不可)。 | | |

| | | | |
|--------------------------|---|---|--------------------------------|
| 授業科目名: メディアと教育 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:大久保 紀一郎 担当形態:クラス分け・単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| 授業の概要 | メディアが変容、複雑化する中で、学校教育が受ける影響や担うべき役割はどうか、教師は何を子どもたちに指導し、身につけさせるべきなのか、メディアを中心とした社会の変容と教育の関係性について検討することで、教育のあり方について考える力を養う。 | | |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・メディア環境の変遷について理解できる。 ・メディア環境の変遷とそれに伴う学校教育のあり方の変容について理解する。 ・メディアを中心とした変わり続ける周辺環境と教育について考えることを通して、教育実践のあり方について自分なりに考えることができる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーション, 情報化社会とSociety5.0 | |
| | 2 | メディアとはなんだろうか | |
| | 3 | 「メディア・リテラシー」とはなんだろうか | |
| | 4 | 多様化する動画メディアとマスメディア | |
| | 5 | メディアとしてのマンガ | |
| | 6 | 多様化する音声メディア | |
| | 7 | メディアとしての生成AI | |
| | 8 | メディアとしてのGIGAスクール構想 | |
| | 9 | メディアとしての教科書 | |
| | 10 | 複雑化するメディア環境と教育 | |
| | 11 | メディアとの付き合い方学習計画1 (授業計画に必要な情報の収集) | |
| | 12 | メディアとの付き合い方学習計画2 (授業実践に必要な教材の準備) | |
| | 13 | メディアとの付き合い方学習発表会1 (マスメディア等従来のメディアを取り扱った事例についての発表) | |
| | 14 | メディアとの付き合い方学習発表会2 (生成AI等近年台頭してきたメディアを取り扱った事例についての発表) | |
| 15 | メディアと教育について | | |
| テキスト・参考書 | 特定のテキストは使用しない。必要な資料は授業ごとに配付する。 参考書 「メディアとのつきあい方」JUST SYSTEM. https://www.justsystems.com/jp/frm/school/academy/mdtk/?m=sch2702 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 毎回のミニツツペーパー40% 授業中の課題30% レポート30% | | |

| | | | |
|-----------------------|--|--|---|
| 授業科目名: 授業実践基礎演習 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名: 市田 克利、西山 由美、民岡 薫 担当形態:クラス分け・単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| 授業の概要 | (1)授業は小グループによる活動を中心として行う。 (2)グループ及び各自で授業計画と教材を作成し、マイクロティーチングを実施する。 (3)マイクロティーチングについては、毎回グループで相互批評を行い、授業の分析力と実践力の向上をめざす。 | | |
| 授業の到達目標 | (1)板書・カード・PCという視覚メディアについて理解し、その特性を活かした教材作成ができる。 (2)授業をコミュニケーションとメディアの機能の観点から理解し、マイクロティーチングを計画・実施することができる。 (3)小グループで活動することにより小集団での学習方法を学び、自主的に学習を進めることができる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | 演習オリエンテーションとグループ分担、相互理解とコミュニケーション | |
| | 2 | 授業の観察と分析 | |
| | 3 | マイクロティーチング、机上授業演習 | |
| | 4 | ①板書・カード等の基本、指導案 | |
| | 5 | ①板書・カード等の特性を活かしたマイクロティーチングの授業計画の作成と教材作成 | |
| | 6 | ①板書・カード等の特性を活かしたマイクロティーチングの実施と相互評価 | |
| | 7 | ①板書・カード等の特性を活かしたマイクロティーチングの振り返りと相互評価 | |
| | 8 | ②PCによるプレゼンテーションの特性と学校現場での活用 | |
| | 9 | ②PCによるプレゼンテーションの特性を活かしたマイクロティーチングの授業計画の作成と教材作成 | |
| | 10 | ②PCによるプレゼンテーションの特性を活かしたマイクロティーチングの実施と相互評価 | |
| | 11 | ③発問を中心としたマイクロティーチングの基本 | |
| | 12 | ③発問を中心としたマイクロティーチングの授業計画の作成と教材作成 | |
| | 13 | ③発問を中心としたマイクロティーチングの実施と相互評価(前半) | |
| | 14 | ③発問を中心としたマイクロティーチングの実施と相互評価(後半)、および全体評価 | |
| 15 | 演習のまとめと振り返り・レポート | | |
| テキスト・参考書 | 「コミュニケーションとメディアを生かした授業 ―新時代の授業実践力を培う基礎演習―」(日本文教出版) 「教育実習から教員採用・初任期までに知っておくべきこと―「骨太の教員」をめざすために―」(教育出版) | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 演習で示されるマイクロティーチング(40%)、レポート課題(40%)、演習への参加意欲等(20%)で評価する。評価の要点はマイクロティーチングの準備・実施状況並びにレポートでの授業分析の内容である。また、グループ活動を中心として行うため、欠席・遅刻が多いと単位の取得は困難である。 | | |

| | | | |
|------------------------|---|----------------------------------|------------------------|
| 授業科目名: 公立学校インターンシップ | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:市田 克利 担当形態:単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| 授業の概要 | <p>(1) 授業は、京都府下の幼・小・中・高・特別支援学校での演習が基本となり、学校現場の演習を通して理論と実践を結び付け、実践的指導力を身に付けることをねらいとしている。</p> <p>(2) 演習内容と演習日程は演習校、演習生、大学の三者で協議し決定する。</p> <p>(3) 演習はテーマに沿って、演習校教員の指導・監督のもとで行う。</p> <p>(4) 演習期間中は大学担当教員へ連絡をとり、成果報告と指導の機会を設ける。</p> <p>(5) 演習期間後に大学において振り返り交流会を実施する。</p> | | |
| 授業の到達目標 | <p>(1) 演習を通じて、学校教育における今日的課題や教職の実際について、実践的かつ総合的に理解できる。</p> <p>(2) 演習を通じて、学校教育における今日的課題や教職の実際についての実践力を高める。</p> <p>(3) 教員の学校組織における役割分担や保護者・地域との連携のあり方等について実践的に学び取る。</p> <p>(4) 演習をふりかえり自身の成果をまとめ、発表・交流することで自己省察能力とコミュニケーション能力を高める。</p> | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーション | |
| | 2 | 事前教育 | |
| | 3 | 演習校での活動 幼児・児童・生徒の実態、課題の理解 | |
| | 4 | 演習校での活動 指導教員等が行う授業の観察 | |
| | 5 | 演習校での活動 指導教員等が行う授業の補助活動 | |
| | 6 | 演習校での活動 指導教員等が行う授業以外の職務内容の理解 | |
| | 7 | 演習校での活動 指導教員等が行う授業以外の職務の補助活動 | |
| | 8 | 演習校での中間振り返り | |
| | 9 | 演習校での活動 学級経営の実態、課題の理解 | |
| | 10 | 演習校での活動 指導教員以外の教員が行う授業の観察 | |
| | 11 | 演習校での活動 指導教員以外の教員が行う授業の補助活動 | |
| | 12 | 演習校での活動 指導教員以外の教員が行う授業以外の職務内容の理解 | |
| | 13 | 演習校での活動 指導教員以外の教員が行う授業以外の職務の補助活動 | |
| | 14 | 大学での振り返り交流会 | |
| 15 | 研究成果の報告 | | |
| テキスト・参考書 | <p>テキスト:「演習ノート」(実地教育運営委員会作成)及び必要に応じて配布する資料等)</p> <p>演習校で配布される資料等は各自で活用すること。</p> <p>参考書:幼稚園教育要領、学習指導要領、生徒指導提要</p> | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | <p>「演習ノート」の記入状況及びレポート・振り返り交流会等での発表を基に評定する。</p> <p>「オリエンテーション」「振り返り交流会」に参加できない場合は、単位を認められないことがある。</p> <p>「合・否」による判定。</p> | | |

| | | | |
|-----------------------|---|---|------------------------|
| 授業科目名: スポーツクラブ指導入門 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:小山 宏之 担当形態:単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| 授業の概要 | 本授業科目は本学が独自に行う体育・スポーツ指導者養成プログラムのコアとなる科目である。第5回までの講義では、小学校期の運動・スポーツ指導の基礎、学校体育や学校運動部活動の現状や課題等について論じる。なお、第5回目では、京都府・京都市の教育委員会から講師を招き(隔年で交代)、授業を展開する。第6回から11回では、4つの運動種目をとりあげ、それぞれの実技能力の向上および指導方法の基礎を学ぶ。第12・13回目は、京都教育大学地域スポーツクラブ(KYO2クラブ)をフィールドとして小学生に対する指導を経験し、最後に得られた知見に基づいて研究討議・発表を行う。 | | |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 発育発達期(主に小学校期)における運動指導の意義、現状と課題を理解する。 2. 学校体育および学校運動部活動の現状と課題を理解する。 3. 陸上、バスケットボール、サッカー、器械運動の指導実習を通じて、指導方法の基礎を理解するとともに、各自の指導力の向上に必要な課題を見つける。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | 発育発達期(主に小学校期)の運動指導、指導におけるコーチングについて | |
| | 2 | スポーツ指導者の養成と資格認定制度(日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格) | |
| | 3 | 学校運動部活動の現状と課題 | |
| | 4 | 子どもたちの体力、学校体育の現状と課題 | |
| | 5 | 学校教員として身に付けていくべき能力(ゲストスピーカー 京都府/京都市教育委員会) | |
| | 6 | スポーツ指導のための運動内容の考え方(実技) | |
| | 7 | 小学校体育、スポーツ指導のための実技能力と指導方法の基礎(1)バスケットボール | |
| | 8 | 小学校体育、スポーツ指導のための実技能力と指導方法の基礎(2)サッカー | |
| | 9 | 小学校体育、スポーツ指導のための実技能力と指導方法の基礎(3)器械運動 | |
| | 10 | 小学校体育、スポーツ指導のための実技能力と指導方法の基礎(4)陸上競技 | |
| | 11 | KYO2クラブ(小学生運動教室)における実地指導に向けた各種目の指導方法について | |
| | 12 | KYO2クラブ実地指導(1)指導者(教員)としての心構え、活動や運動の観察について | |
| | 13 | KYO2クラブ実地指導(2)指示の仕方、活動のマネジメントについて | |
| | 14 | 実地指導等での学びに関するグループ討議 | |
| 15 | 全体での研究発表会 | | |
| テキスト・参考書 | 参考書:日本スポーツ協会 Reference Book | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 以下の4項目で評価する:(1)講義における参加度および授業レポート:25%、(2)実技および実地指導における参加度と課題レポート:25%、(3)研究発表会における積極性、リーダーシップおよび発表内容等:25%、(4)最終レポート:25%。ただし、いずれかの項目において著しく低い評価を得た場合には、合計が60点以上であっても不可とする場合がある。 | | |

| | | | |
|-----------------------|--|-------------------------|------------------------|
| 授業科目名: 国際教育論 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:濱田 麻里 担当形態:単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| 授業の概要 | 日本国内のグローバル化は日々進んでいて、日本を一步も出なくとも、グローバル化の影響を受けずに生きていくことはできない。とくに、学校は社会の縮図であり、外国にルーツをもつ子どもや日本語を母語としない子どもが増加するなど、昨今の学校の様子から日本が国際社会と直結している状況を如実に感じることができる。 そこで本授業では、外国にルーツを持つ子どもや保護者に関わる問題について学ぶことを通して、グローバルな視点から教育を捉えることを目指す。 | | |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本国内のグローバル化の現状とその背景について理解する。 ・グローバル化が進む学校の中で、グローバルな背景を持つ人々に対して対応を行う際に求められる公正性を身に付ける ・グローバル化が進む日本の学校教育の在り方を構想することができる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーション | |
| | 2 | 「日本人」って誰?—国籍と在留資格 | |
| | 3 | 貿易ゲームでグローバル化を考える | |
| | 4 | 帰国児童生徒 | |
| | 5 | 就労者 | |
| | 6 | 結婚移住女性 | |
| | 7 | 家族 | |
| | 8 | 差別と偏見 ミックスルーツ | |
| | 9 | 紛争と難民 | |
| | 10 | 中国帰国者 | |
| | 11 | チェンマイ大との交流(1)準備 | |
| | 12 | チェンマイ大との交流(2)交流 | |
| | 13 | 国際交流の現場から—ゲスト・スピーカーを迎えて | |
| | 14 | ゲスト・スピーカー振り返り | |
| 15 | まとめ | | |
| | 試験 | | |
| テキスト・参考書 | 額賀美紗子他編『移民から教育を考える～子どもたちをとりまくグローバル時代の課題』ナカニシヤ出版 9784779513695 宮島喬他編『国際社会学～現代社会へのトランスナショナルな接近』有斐閣 9784641174061 森茂岳雄他編著『国際理解教育と多文化教育のまなざし—多様性と社会正義』明石書店 978-4750355719 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 課題提出(毎週) 70%/期末試験 30% | | |

| | | | |
|----------------------------|---|-------------------------------------|------------------------|
| 授業科目名: 児童・生徒のための日本語教育論A | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:濱田 麻里 担当形態:単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| 授業の概要 | 外国人児童生徒等に対する日本語指導は、義務教育諸学校では2014年より2023年度からは高校でも「特別の教育課程」として正規の課程に位置づけることが可能になった。学習指導要領でも日本語指導について「個々の児童の実態に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行う」「教師間の連携に努め」「指導についての計画を個別に作成することなどにより、効果的な指導に努める」と記述された。外国人受入がますます拡大するなかで、自身が日本語指導者とならなくても、自身の勤務校に日本語指導が必要な児童生徒が転入してくる可能性は、どの教員にもある。 この授業では、外国人児童生徒等の指導に必要な基礎知識として、バイリンガル環境で育つ子どもの言語習得や日本語の特徴、日本語指導の方法などを学ぶ。 | | |
| 授業の到達目標 | 日本語指導の必要な児童・生徒を学校において支援するために必要な基礎的な知識を身につける。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | イントロダクション | |
| | 2 | 外国人児童生徒等教育の背景・現状・施策、教育の課題 | |
| | 3 | 文化適応 | |
| | 4 | 母語・母文化・アイデンティティ | |
| | 5 | 言語と認知の発達 | |
| | 6 | 言語能力の測定 | |
| | 7 | 日本語の特徴 | |
| | 8 | 子どもの日本語教育の理論と方法(1)日本語指導のコース設計 | |
| | 9 | 子どもの日本語教育の理論と方法(2)コミュニケーション能力を養う指導法 | |
| | 10 | 日本語指導のプログラム(1)プログラムの概要 | |
| | 11 | 日本語指導のプログラム(2)発達段階への対応 | |
| | 12 | 学校の受け入れ体制 | |
| | 13 | 在籍学級での学習支援 | |
| | 14 | 社会参加とキャリア教育 | |
| | 15 | 成長する教師 | |
| | 試験 | | |
| テキスト・参考書 | <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『外国人児童生徒受入れの手引き【改訂版】』明石書店 ISBN:9784750348407 ￥880 ダウンロードも可(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm) ・齋藤ひろみ編(2022)『外国人の子どもへの学習支援』金子書房 1,430円 ・西川朋美編(2022)『外国につながる子どもの日本語教育』くろしお出版 2,420円 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 授業後課題 60%/期末テスト 40% | | |

| | | | |
|-----------------------|---|--------------------------------------|-----------------------|
| 授業科目名: 学校教育と生活工学 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:権 真煥 担当形態:単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| 授業の概要 | 近年、生活に関わる工学分野はテクノロジーと情報化の進展により著しい発展を遂げている。本科目では現代社会の生活工学技術の概念を理解し、各学校段階の教育内容と工学の関係について考察する。また、ICT機材を用いた教育演習を通してAI・ICT教育の実践力を身につける。特に生成AIに関する理解を深め、授業や校務への活用方法を習得する。 | | |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活に関わる諸科学・技術の基礎知識を習得する。 2. 各学校段階の教育内容と工学の関係について考察する。 3. AI・ICT機材の教育演習を通じてAI・ICT教育の実践力を身につける。 4. グループワークを通して能動的学習や思考力、協調性、表現力を高める。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | ガイダンス | |
| | 2 | 工学の基礎と生活工学 | |
| | 3 | 情報機器とICT教育 | |
| | 4 | ICT教育の実践事例 | |
| | 5 | 教育用グラフィックデザインの基礎 | |
| | 6 | 教育用グラフィックデザインソフトの演習 | |
| | 7 | オンライン学級の基礎 | |
| | 8 | オンライン学級制作ツールの演習 | |
| | 9 | 生成AIソフトの基礎 | |
| | 10 | 生成AIソフトの演習 | |
| | 11 | グループワーク「ICT教育実践に対する班別テーマの決定、活動計画の立案」 | |
| | 12 | グループワーク「ICT教育実践の準備」 | |
| | 13 | 課題発表－Aグループ | |
| | 14 | 課題発表－Bグループ | |
| 15 | まとめ | | |
| テキスト・参考書 | <p>【テキスト】 ・配付資料による講義とする。</p> <p>【参考書】 ・「コンピューター&テクノロジー」ロン・ホワイト（SBクリエイティブ） ・「無理なくできる 学校のICT活用―」長谷川 元洋（学事出版） ・「学校の生成AI実践ガイド」特定非営利活動法人みんなのコード（学事出版） ・「ChatGPT×教師の仕事」南部 久貴（明治図書出版）</p> | | |
| 評価の方法（評価の配点比率と評価の要点） | 出席が基準を満たしていることが必要条件で、レポートおよび課題発表（80%）、授業への参加態度（20%）で評価する。 | | |

| | | | |
|-----------------------|---|------------------------------|------------------------|
| 授業科目名: 学校と子どもの安全 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:藤田 大輔 担当形態:単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| 授業の概要 | わが国の学校安全を構成する「安全教育」「安全管理」「安全連携」の歴史と現状、さらに現在の学校安全に関わる課題について解説し、包括的な学校安全の推進を担う教職員の活動に関する理解を深める。 | | |
| 授業の到達目標 | 1.学校安全や危機管理に関する基本的事項について理解することができる。 2.安全教育の展開を校種に対応して作成できる。 3.危機対応(リスク・マネジメント)の能力について基本的な姿勢を身に付けることができる。 4.チーム学校と連携した学校安全の取り組みを立案できる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | 学校安全の考え方(附属池田小学校事件に関わる反省と教訓) | |
| | 2 | 学校安全の領域構造 | |
| | 3 | 学校保健安全法(学校安全計画の策定) | |
| | 4 | 学校保健安全法(危険等発生時対処要領の作成) | |
| | 5 | チーム学校と学校安全 | |
| | 6 | 安全教育の考え方(ハインリッヒの法則) | |
| | 7 | 安全教育の考え方(ソーシャルサポート認知) | |
| | 8 | 安全教育の考え方(犯罪機会論) | |
| | 9 | 安全教育教材の開発事例(安全・防災教育プログラムの開発) | |
| | 10 | 小学校学習指導要領と安全教育 | |
| | 11 | 中学校学習指導要領と安全教育 | |
| | 12 | 学校事故と災害共済給付制度 | |
| | 13 | 学校事故対応に関する指針 | |
| | 14 | 不審者対応訓練 | |
| | 15 | 国内外の学校における安全教育と安全管理の実際 | |
| | 試験 | | |
| テキスト・参考書 | [テキスト] 特に指定しない。必要な資料は授業中に配布する。 [参考書] 教師のための学校安全 -改訂版- 小山健藏、藤田大輔、白石龍生、大道乃里江 著、学研教育みらい、2014。 新版 みんなのあんぜん 1年 ~ 新版 みんなの安全 6年、藤田大輔・木宮敬信(監修・指導)、学研教育みらい、2020。 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 1)授業への参加度(20%) 2)ミニレポート(20%) 3)期末試験(60%) | | |

| | | | |
|--------------------------|--|------------------------------------|------------------------|
| 授業科目名: 学校園における農園芸実習 I | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:南山 泰宏 担当形態:単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| 授業の概要 | <p>本学の環境教育実践センター内の農場、温室において、作物、野菜、花卉を実際に4月から8月の前期の期間に栽培・収穫することにより、植物の生長に及ぼす環境要因の影響や植物栽培の知識・技能の基礎を学ぶ。同時に植物を栽培する楽しみ、生命の不思議さ、農業の大切さや困難さを体験し、汗を流して勤労する喜びを理解する。さらに、作物残渣からの堆肥の作成やその利用による「食の循環」から持続可能な農業についても考える。</p> | | |
| 授業の到達目標 | <p>1.植物を栽培・収穫する活動を通して、農業の意義やその教育力を実践を通して理解できるようになる。 2.環境要因の影響下で植物を栽培するための知識・技術の基礎を習得し、教員になった際に実践できるようになる。</p> | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | ガイダンス、ジャガイモの植えつけ | |
| | 2 | スイートコーンの栽培(畑の準備と播種)、培養土の作成と花苗の鉢上げ | |
| | 3 | ジャガイモの土寄せ作業、ラッカセイの播種 | |
| | 4 | イネの播種、スイートコーンの管理(中耕・除草) | |
| | 5 | アサガオの播種、トマトの接ぎ木と育苗、サトイモの定植 | |
| | 6 | アサガオの鉢上げ、ラッカセイの定植、緑のカーテンの準備 | |
| | 7 | タマネギの収穫、トマトの定植、春植え球根の植え付け | |
| | 8 | 田植え、スイートコーンの除穂 | |
| | 9 | 花壇の植え付けと寄せ植え、秋植え球根の掘り上げ | |
| | 10 | サツマイモの植え付け、トマト等の管理(誘引・芽かき) | |
| | 11 | サトイモの管理(中耕・土寄せ)、ハボタとプリムラ・マラコイデスの播種 | |
| | 12 | ジャガイモ収穫、アサガオの鉢替え・仕立て | |
| | 13 | スイートコーン収穫・試食、収穫残渣(有機物)のリサイクル処理 | |
| | 14 | 夏野菜(トマトやキュウリなど)の管理(整枝・剪定)と収穫 | |
| | 15 | 九条ネギの掘りあげ・乾燥、サトイモの管理(土寄せ) | |
| テキスト・参考書 | <p>必要に応じて資料プリントを配布する。 「学校園の栽培便利帳」・日本農業教育学会 編・農山漁村文化協会・ISBN978-4-540-95079-7 「学校園の観察実験便利帳」・日本農業教育学会 編・農山漁村文化協会・ISBN978-4-540-98056-5 「応用植物科学栽培実習マニュアル」・森源治郎他 監・養賢堂・ISBN978-4-8425-0058-1</p> | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | <p>授業に12回以上出席した者を評価の対象にする。 実習への取り組み態度(50%)、提出用の記録ノート(25%)、期末課題レポート(25%)により評価する。</p> | | |

| | | | |
|-------------------------|---|---|------------------------|
| 授業科目名: 学校園における農園芸実習Ⅱ | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:南山 泰宏 担当形態:単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| 授業の概要 | <p>本学の環境教育実践センター内の農場、温室において、作物、野菜、花卉を実際に10月から2月の後期の期間に栽培・収穫することにより、植物の生長に及ぼす環境要因の影響や植物栽培の知識・技能の基礎を学ぶ。同時に植物を栽培する楽しみ、生命の不思議さ、農業の大切さや困難さを体験し、汗を流して勤労する喜びを理解する。さらに、作物残渣や落葉からの堆肥の作成やその利用による「食の循環」や、廃棄する剪定枝のエネルギーとしての利用を通して持続可能な農業についても考える。</p> | | |
| 授業の到達目標 | <p>1.植物を栽培・収穫する活動を通して、農業の意義やその教育力を実践を通して理解できるようになる。 2.環境要因の影響下で植物を栽培するための知識・技術の基礎を習得し、教員になった際に実践できるようになる。</p> | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | イネの収穫・乾燥・調整 | |
| | 2 | ラッカセイの収穫、九条ネギの播種・育苗 | |
| | 3 | イネの脱穀、プリムラ・マラコイデス・パンジーなどの鉢上げ | |
| | 4 | カキの収穫・脱渋、タマネギ畑の土づくり(堆肥施用) | |
| | 5 | サツマイモの収穫・茎葉の粉碎処理・リサイクル堆肥の作成 | |
| | 6 | イネの籾すり、テッポウユリの簡便培養 | |
| | 7 | 花壇の植え付け、コンテナへの草花の寄せ植え | |
| | 8 | タマネギの苗の定植、サトイモの収穫 | |
| | 9 | 秋植え球根の植えつけ、ヒヤシンスの水栽培 | |
| | 10 | 春植え球根の掘り上げ・貯蔵・箱詰め、イナワラ加工、新米の試食 | |
| | 11 | もちつき | |
| | 12 | 果樹(カキ・キーウイ等)・樹木の剪定、整枝、寒肥施用 | |
| | 13 | タマネギの管理(追肥)、温室・ビニールハウスの管理、シイタケの原木栽培(植菌) | |
| | 14 | 樹木・果樹剪定枝の粉碎、樹木剪定枝からの木質ペレットの作成、落ち葉処理・腐葉土作成 | |
| 15 | ジャガイモ畑の土作り(堆肥施用)、トラクターによる耕うん、育苗用培養土の消毒 | | |
| テキスト・参考書 | <p>必要に応じて資料プリントを配布する。 「学校園の栽培便利帳」・日本農業教育学会 編・農山漁村文化協会・ISBN978-4-540-95079-7 「学校園の観察実験便利帳」・日本農業教育学会 編・農山漁村文化協会・ISBN978-4-540-98056-5 「応用植物科学栽培実習マニュアル」・森源治郎他 監・養賢堂・ISBN978-4-8425-0058-1</p> | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | <p>授業に12回以上出席した者を評価の対象にする。 実習への取り組み態度(50%)、提出用の記録ノート(25%)、期末課題レポート(25%)により評価する。</p> | | |

| | | | |
|-----------------------|--|--------------------------------|------------------------|
| 授業科目名: 性倫理と性教育 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:門下 祐子 担当形態:単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| 授業の概要 | からだに関する科学的な知識を習得するだけでなく、恋愛や性行為も含む、パートナーおよび他者との関係性について考え、広く人間の「性」について理解を深めます。 「性」の学びを通して、一人の権利主体として自分の生き方を思い描くこと、そして共に生きる人々、そしてこれから出会う子どもたちの「性」が尊重される社会のあり方についても考察を深めます。 「性」をポジティブに捉え、よりよい関係性を築き、個々のウェルビーイングを実現するための包括的性教育についてともに考えていきましょう。 | | |
| 授業の到達目標 | 1. 「性」に関する科学的な知識および人との関係性について、基本的な視点や知識を習得することができる。 2. 性の権利や性の健康を推進するための行動について考え、今後の教育と社会変革への展望をもつことができる。 3. 将来、教員や大人として、多様性とジェンダー平等を基盤とした包括的性教育の実践に取り組むことができる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーション、なぜ「性」を学ぶのか、性の権利、SRHR | |
| | 2 | 「性」と人間関係(1)性の多様性、恋愛 | |
| | 3 | 「性」と人間関係(2)性的同意、デートDV等 | |
| | 4 | わたしたちのからだ | |
| | 5 | 生殖にまつわること(1)性行為、性感染症、避妊等 | |
| | 6 | 生殖にまつわること(2)妊娠、出産、中絶等 | |
| | 7 | 「性」と人権をめぐる現状(1)ジェンダー、性別役割分業等 | |
| | 8 | 「性」と人権をめぐる現状(2)性暴力、「性」の商品化等 | |
| | 9 | 障害のある人における「性」(1)学齢期 | |
| | 10 | 障害のある人における「性」(2)成人期 | |
| | 11 | 包括的性教育とは(1)8つのキーコンセプト | |
| | 12 | 包括的性教育とは(2)全国の学校等における実践 | |
| | 13 | 包括的性教育の実践づくり(1)対象・目的・内容等の検討 | |
| | 14 | 包括的性教育の実践づくり(2)発表・意見交換 | |
| | 15 | まとめとレポート | |
| テキスト・参考書 | 【テキスト】 『シンプル性教育 いっしょに話そう！くらす・はたらくに活かす「性」のこと』門下祐子著(一般社団法人スローコミュニケーション)授業には必携。 【参考図書】 季刊『セクシュアリティ』誌(エイデル研究所) 『改訂新版 ヒューマン・セクソロジー 生きていること、生きていくこと、もっと深く考えたい』猪潤一、佐藤明子、水野哲夫、村瀬幸浩(共著)(子どもの未来社) | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 平常点(授業への参加度、中間レポート、毎回のミニレポートなど)60%、最終レポート40%。最終レポートの提出がない場合は不可とする。不正があった場合は、厳しく対処する。 | | |

| | | | |
|--------------------------|---|-------------------|-----------------------|
| 授業科目名: 子どもの健康と身体形成 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:浅沼 徹 担当形態:単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| 授業の概要 | 人の発育・発達には、遺伝的・環境的なさまざまな要因が影響を与える。本授業では子どもの身体形成過程を概説するとともに、影響を与えるさまざまな要因からみた身体形成について考察する。そして、子どもにみられる疾病や健康障害について理解し、学校における健康教育の果たす役割について考える。 | | |
| 授業の到達目標 | 1.子どもの身体形成の概略について理解できる。 2.身体形成と健康とのかかわりについて理解できる。 3.子どもの身体形成と健康保持増進のための、学校における健康教育の役割について理解できる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | 子どもの身体形成について(概論) | |
| | 2 | 胎児期の身体形成 | |
| | 3 | 遺伝子と身体形成 | |
| | 4 | ホルモンと身体形成 | |
| | 5 | 環境と身体形成 | |
| | 6 | 食事・栄養と身体形成 | |
| | 7 | 行動と身体形成 | |
| | 8 | こころと身体形成 | |
| | 9 | 脳と身体形成(知覚と運動の発達) | |
| | 10 | 運動と身体形成(基本的動作の習得) | |
| | 11 | 事故と身体形成 | |
| | 12 | 生体リズムと身体形成 | |
| | 13 | メディア・スマホと身体形成 | |
| | 14 | 学校と身体形成 | |
| 15 | まとめ | | |
| テキスト・参考書 | テキスト:特になし 参考書:からだの発達と加齢の科学, 高石昌弘監修, 樋口満, 佐竹隆編著, 大修館書店 その他、授業時に参考となる書籍やサイトを紹介し、スライド資料を配信する。 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 1.出席状況:出席率が2/3以上であることを原則とする 2.ミニレポートやグループディスカッションシートの記述内容(60%) 3.期末レポート(40%) | | |

| | | | |
|--------------------------|--|-----------------------------|-----------------------|
| 授業科目名: ジェンダー論 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:岩島 史 担当形態:単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| 授業の概要 | ジェンダーとは、生物学的な性の差に対して付与された政治的・社会的・文化的な意味づけのことをさす。 この講義では、第1部でジェンダー論についての基本的な議論を紹介した後、第2部では、教育という営みをジェンダーの視角から考える。第3部では特に学校教育において重要だと考えられるトピックをとりあげ、ジェンダーの視角から考える。また、必要に応じて関連する視聴覚資料も用いる。 | | |
| 授業の到達目標 | 1. ジェンダー論の基本的な用語と理論を習得すること 2. 学校教育に関わる社会の諸問題について、ジェンダーの視点から説明できるようになること 3. 日常生活の様々な場面をジェンダーの視点から考察できるようになること | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | イントロダクション:なぜジェンダーを学ぶのか | |
| | 2 | ジェンダーでみる現代日本社会 | |
| | 3 | 性別とはなにか | |
| | 4 | 多様なセクシュアリティ | |
| | 5 | 家族とジェンダー | |
| | 6 | フェミニズムの歴史と男性学 | |
| | 7 | 教育とジェンダー(1)幼児教育、家庭教育、子育て支援 | |
| | 8 | 教育とジェンダー(2)学校文化とかくれたカリキュラム | |
| | 9 | 教育とジェンダー(3)性教育 | |
| | 10 | 教育とジェンダー(4)スポーツとジェンダー | |
| | 11 | 教育とジェンダー(5)社会教育と女性のエンパワーメント | |
| | 12 | 性暴力 | |
| | 13 | 性と生殖に関する権利 | |
| | 14 | 科学とジェンダー | |
| | 15 | SDGsとジェンダー | |
| | 試験 | | |
| テキスト・参考書 | 教科書は指定せず、毎回の講義では講義資料を配布する。参考書は下記の通り。 千田有紀・中西裕子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』有斐閣。2013年初版 加藤秀一『はじめてのジェンダー論』有斐閣。2017年初版 『新編 日本のフェミニズム8 ジェンダーと教育』岩波書店 2009年第1刷 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 平常点:40% 講義やディスカッションへの参加、および数回程度予定しているコメントペーパーの提出(課題を適切に理解し、論理的な記述がなされていること) 期末試験:60% 講義内容や用語の理解度を問う。 | | |

| | | | |
|-----------------------|---|---------------------------------|---|
| 授業科目名: 道徳の理論及び指導法 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名: 神代 健彦、井谷 信彦、森 七恵 担当形態:クラス分け・単独 |
| 科 目 | 大学が独自に設定する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | | | |
| 授業の概要 | 本講義では、道徳教育の意義や歴史など理論的な部分から、実際の学校における道徳教育についての実践的な部分までを扱う。各自の主體的な学習により、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる「特別の教科 道徳」における指導もできるようにする。 | | |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の意義や原理や歴史と現状について理解することができる。 ・今日の学校における道徳教育実践および道徳授業実践について、その目的と内容を学び、指導方法を身につける。 ・学校において道徳教育や「特別の教科 道徳」の基本的指導ができる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | ガイダンス | |
| | 2 | 道徳理論の本質と基礎 | |
| | 3 | 道徳性の発達と心の成長(1):自律的な道徳性の発達 | |
| | 4 | 道徳性の発達と心の成長(2):社会性の発達と道徳性 | |
| | 5 | 道徳教育の目標と内容(1):道徳教育の歴史と現在 | |
| | 6 | 道徳教育の目標と内容(2):「特別の教科 道徳」の学習指導要領 | |
| | 7 | 道徳教育の方法と評価 | |
| | 8 | 【特別講義】指導主事の先生による道徳教育の実践の講義 | |
| | 9 | 【特別講義】附属学校の先生による道徳教育の実践の講義 | |
| | 10 | 授業を構想・設計する(Plan) | |
| | 11 | 指導案作成から授業の実践・終末まで(Do) | |
| | 12 | 授業の評価(Check) | |
| | 13 | 授業改善のための振り返りと教師としての心構(Action) | |
| | 14 | 道徳教育の現代化 | |
| | 15 | 全体を通じてのまとめと振り返り | |
| | 試験(または最終レポート) | | |
| テキスト・参考書 | 参考書:相澤伸幸・神代健彦 編著『道徳教育のキソ・キホン』(ナカニシヤ出版、2018) 『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、『小学校学習指導要領解説(特別の教科 道徳編)』、『中学校学習指導要領解説(特別の教科 道徳編)』(すべて最新版、なお各要領解説は文部科学省ウェブサイトからダウンロード可) | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 授業への参加度等:20% 授業での提出物:30% 最終テスト(あるいは最終レポート):50% | | |

| | | | |
|--------------------------|--|-------------------------|------------------------|
| 授業科目名: 日本国憲法 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名: 比良 友佳理、梅宮 弘典 |
| | | | 担当形態:クラス分け・単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 日本国憲法 | | |
| 授業の概要 | 日本国憲法の解釈の重要な論点について、憲法の基本理念との連関を明らかにしながら解説する。また、裁判所の判例を素材として、具体的な憲法問題について考える力を養う。 | | |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1 憲法の基本的理念を学習し、全体像をつかむ。 2 日本国憲法の重要な論点について、基礎的知識を習得する。 3 現実の社会で起こる憲法問題に対して、自ら考える能力を培う。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | ガイダンス | |
| | 2 | 憲法総論(1)憲法の意味、憲法の歴史、立憲主義 | |
| | 3 | 憲法総論(2)平和主義、天皇制 | |
| | 4 | 基本的人権(1)人権総論 | |
| | 5 | 基本的人権(2)思想・良心の自由 | |
| | 6 | 基本的人権(3)信教の自由、学問の自由 | |
| | 7 | 基本的人権(4)表現の自由 | |
| | 8 | 基本的人権(5)経済的自由 | |
| | 9 | 基本的人権(6)社会権 | |
| | 10 | 基本的人権(7)幸福追求権、人身の自由 | |
| | 11 | 基本的人権(8)平等原則 | |
| | 12 | 統治機構(1)国会 | |
| | 13 | 統治機構(2)内閣 | |
| | 14 | 統治機構(3)裁判所 | |
| | | まとめと復習 | |
| | 試験 | | |
| テキスト・参考書 | <p>詳細については、初回授業のガイダンスにて指示・案内する。</p> <p><教科書>『合格水準 教職のための憲法[第2版]』出版社:法律文化社 著者:志田陽子ほか</p> <p><参考書>『一歩先への憲法入門』出版社:有斐閣 著者:片桐直人・井上武史・大林啓吾</p> <p>『グラフィック憲法入門』出版社:新世社 著者:毛利透</p> <p>『START UP 憲法判例50!』出版社:有斐閣 著者:上田健介・尾形健・片桐直人</p> | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 期末試験80%、レポート20%で評価する。詳しくは初回授業で案内する。 | | |

| | | | |
|------------------------|---|--|------------------------|
| 授業科目名: 生涯スポーツ実習 I A | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:1単位 | 担当教員名:伊藤 千草 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 体育 | | |
| 授業の概要 | 個々の体力とテニスのスキルを高めるとともに、テニスの楽しさを味わえる知識を身につけるための実習を行う。 | | |
| 授業の到達目標 | 生涯を通じてスポーツを実践するために必要な知識、能力についてテニスを通して身につける。特にダブルスのゲームをセルフジャッジで楽しめることを目標とする。各自が積極的にコミュニケーションをとり、実習を通して社会的自立心を養う。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーション (授業の進め方、心得、評価の方法他) | |
| | 2 | テニスの基本 (グリップ、姿勢、ヒットする感覚) | |
| | 3 | ストロークの基本練習1 (フォアハンドストローク) | |
| | 4 | ストロークの基本練習2・ミニゲーム (フォアハンド、バックハンド) | |
| | 5 | ストロークの基本練習3・ミニゲーム (フットワークをつかったストローク) | |
| | 6 | ボレーの基本練習・反復練習・ミニゲーム (フォアハンドボレー・バックハンドボレー) | |
| | 7 | 応用練習1 (ストローク、ボレーの組み合わせ、ミニゲーム) | |
| | 8 | サーブ、スマッシュの練習1・反復練習・ミニゲーム (スウィングの基本) | |
| | 9 | 応用練習2 (スキルの組み合わせによるラリー) | |
| | 10 | ダブルスの練習1 (ルール、ゲームの進め方、陣形) | |
| | 11 | ダブルスの練習2 (実践的練習) | |
| | 12 | ダブルスゲーム1 個々の能力に合わせた組み合わせ | |
| | 13 | ダブルスゲーム2 全体での組み合わせ(サーブ・リターン重視) | |
| | 14 | 体力・運動能力テスト(50m走、ハンドボール投げ、他) | |
| | 15 | 体力・運動能力テスト(反復横跳び、シャトルラン、他) | |
| | ※一部授業回を変更して実施する予定です。 | | |
| テキスト・参考書 | 硬式テニスの基本と練習法 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 授業への取り組み姿勢(服装・言動)80%、レポート提出20%を重視し、授業への積極的な参加の総合評価とする。 | | |

| | | | |
|--------------------------|--|---|------------------------|
| 授業科目名: 生涯スポーツ実習 I B | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:1単位 | 担当教員名:坂部 崇政 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 体育 | | |
| 授業の概要 | 屋内球技(主にバレーボールとバスケットボール)の実習を通して、それぞれをプレイするための基礎的な技能、ルールと戦術、ゲームの運営方法、バリエーション作りの方法を学ぶ。 | | |
| 授業の到達目標 | 1. 生涯にわたってスポーツを実践するための知識・技能を修得する。 2. 現代生活におけるスポーツの意義を理解する。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーション | |
| | 2 | バスケットボール: 個人的技能の向上を目標とする練習とゲーム1(パスとドリブル) | |
| | 3 | バスケットボール: 個人的技能の向上を目標とする練習とゲーム2(シュート) | |
| | 4 | バスケットボール: 個人的技能の向上を目標とする練習とゲーム3(つなぎプレーからのシュート) | |
| | 5 | バスケットボール: 集団的技能の向上を目標とする練習とゲーム1(速攻と遅攻) | |
| | 6 | バスケットボール: 集団的技能の向上を目標とする練習とゲーム2(スペースの活用) | |
| | 7 | バスケットボール: まとめのゲーム | |
| | 8 | バレーボール: 個人的技能の向上を目標とする練習とゲーム1(基本のパス) | |
| | 9 | バレーボール: 個人的技能の向上を目標とする練習とゲーム2(パス能力の向上とサービス) | |
| | 10 | バレーボール: 個人的技能の向上を目標とする練習とゲーム3(基本のスパイク) | |
| | 11 | バレーボール: 集団的技能の向上を目標とする練習とゲーム1(スパイクにつなげるプレー) | |
| | 12 | バレーボール: 集団的技能の向上を目標とする練習とゲーム2(ポジショニング) | |
| | 13 | バレーボール: まとめのゲーム | |
| | 14 | 体力・運動能力テスト(50m走、ハンドボール投げ、他) | |
| | 15 | 体力・運動能力テスト(反復横跳び、シャトルラン、他) | |
| | ※一部授業回を変更して実施する予定です。 | | |
| テキスト・参考書 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは使用しない。 ・以下を参考書として要点を適宜紹介する。 文部科学省(2017)「小学校学習指導要領解説 体育編」 文部科学省(2017)「中学校学習指導要領解説 保健体育編」 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | <ul style="list-style-type: none"> ・運動技能30% ・競技規則、戦術、練習方法についての理解30% ・授業(準備・片付けを含む)への主体的な参加20% ・学期末課題20%:未提出者は評価の対象としない | | |

| | | | |
|------------------------|---|---|------------------------|
| 授業科目名: 生涯スポーツ実習 I C | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:1単位 | 担当教員名:森井 裕子 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 体育 | | |
| 授業の概要 | 健康への危機感が高まる現代社会、フィットネス(健康づくりの為の運動)プログラムの実習、及び健康の為の運動の効果的かつ安全な方法について学習する。一方、フィットネスとして活用される運動は、ジョギングや筋カトレーニングといった従来のものから、ヨガ、ダンス、ピラティスなど、そのニーズに応じて多様化している。それらは、単に健康のための運動という枠組みを超えて、人々の楽しみ、快経験として普及をしている。本授業では、フィットネスの基本的内容にその要素を加味しながら行う。 | | |
| 授業の到達目標 | 1) 体を動かす楽しさを感じ、積極的に運動に取り組むことができる。 2) フィットネス(健康づくりの為の運動)の実習やフィットネスに関する理論学習を通して運動への理解を深め、効果的な運動の実践能力を高める。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーション(全体、選択種目による説明) | |
| | 2 | 運動実践と知識・スキルに関する基礎学習1:体力についての基礎知識と実習 | |
| | 3 | 運動実践と知識・スキルに関する基礎学習2:健康とフィットネスについての基礎知識と実習 | |
| | 4 | 運動実践と知識・スキルに関する基礎学習3:トレーニングの原則についての基礎知識と実習 | |
| | 5 | 運動実践と知識・スキルに関する基礎学習4:ウォーミングアップについての基礎知識と実習 | |
| | 6 | 運動実践と知識・スキルに関する基礎学習5:運動のモニタリングについての基礎知識と実習 | |
| | 7 | 運動実践と知識・スキルに関する基礎学習6:身体の構造と運動効果についての基礎知識と実習 | |
| | 8 | 運動実践と知識・スキルに関する基礎学習7:運動の計画についての基礎知識と実習 | |
| | 9 | 運動実践と知識・スキルに関する基礎学習8:自己評価についての基礎知識と実習 | |
| | 10 | 各自で計画したプログラムに沿った運動実践1:個人トライアルと自己評価 | |
| | 11 | 各自で計画したプログラムに沿った運動実践2:グループトライアルと評価 | |
| | 12 | 各自で計画したプログラムに沿った運動実践3:総合実習と評価 | |
| | 13 | フィットネスプログラムについてのまとめ | |
| | 14 | 体力・運動能力テスト(50m走、ハンドボール投げ、他) | |
| | 15 | 体力・運動能力テスト(反復横跳び、シャトルラン、他) | |
| | ※一部授業回を変更して実施する予定です。 | | |
| テキスト・参考書 | 【参考図書】心と身体の健康・スポーツ:大修館書店 他必要に応じ資料を適宜配布する。 尚、課題へ取り組む際は自主的に参考書を探すことが望ましい | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 授業参加への意欲・関心・態度...70% 課題の提出...30% | | |

| | | | |
|--------------------------|--|---|------------------------|
| 授業科目名: 生涯スポーツ実習 I D | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:1単位 | 担当教員名:飯田 陽子 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 体育 | | |
| 授業の概要 | 生涯スポーツの視点から、年代、性別、スポーツ経験など、様々に異なる状況、幅広い対象に対して、ともにスポーツを楽しむ技術や態度を身につける。レクリエーションスポーツ(各種ゲームやニュースポーツを含む)を紹介するとともに、実施における展開方法及び留意点を学習する。 | | |
| 授業の到達目標 | 1. 生涯にわたってスポーツを実践するための知識・技能を修得する。 2. スポーツ活動を運営するための基本的な知識・技能を修得する。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | 導入、授業の進め方(『楽しい』『役に立つ』をテーマに授業を展開していく) | |
| | 2 | アイスブレイク(緊張をほぐす)ゲームの体験1 初対面の集合体対象 | |
| | 3 | アイスブレイク(緊張をほぐす)ゲームの体験2 障がい者(児)施設対象 | |
| | 4 | レクリエーションスポーツの体験 昔なつかしの子どもの遊びゲーム1 小学生対象 | |
| | 5 | レクリエーションスポーツの体験 昔なつかしの子どもの遊びゲーム2 高齢者対象 | |
| | 6 | レクリエーションスポーツの体験 信頼関係を築くゲーム1 中学生対象 | |
| | 7 | レクリエーションスポーツの体験 信頼関係を気づくゲーム2 高校生対象 | |
| | 8 | 生涯スポーツにおけるレクリエーションスポーツの理解 身体ほぐし | |
| | 9 | レクリエーションスポーツの立案・運営の基礎 グループでゲームの企画・実施・評価1 保育所・幼稚園対象 | |
| | 10 | レクリエーションスポーツの立案・運営の基礎 グループでゲームの企画・実施・評価2 小学校(低・中学年)対象 | |
| | 11 | レクリエーションスポーツの立案・運営・実践 個人でゲームの企画・実施・評価3 小学校(高学年)対象 | |
| | 12 | レクリエーションスポーツの立案・運営・実践 個人でゲームの企画・実施・評価4 中学校・高等学校対象 | |
| | 13 | レクリエーションスポーツの立案・運営・実践 個人でゲームの企画・実施・評価5 高齢者対象 授業全体のまとめ | |
| | 14 | 体力・運動能力テスト(50m走、ハンドボール投げ、他) | |
| | 15 | 体力・運動能力テスト(反復横跳び、シャトルラン、他) | |
| | ※一部授業回を変更して実施する予定です。 | | |
| テキスト・参考書 | ・テキスト:「レクリエーション支援の基礎」 ・参考書については、授業時に適宜紹介するとともに、必要に応じてプリントを配布する。 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 配点比率:授業に対する積極性(60)、個人課題などのへの取り組み(40) | | |

| | | | |
|--------------------------|--|---------------------------------|-----------------------|
| 授業科目名: 生涯スポーツ実習 I E | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:1単位 | 担当教員名:遠藤 浩 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 体育 | | |
| 授業の概要 | キャンプの基礎的な知識や技術を習得するとともに、自然の中で活動することの楽しみや自然とのローインパクトな接し方を学習する。集中授業であり、登山や環境教育的な活動を行う。 | | |
| 授業の到達目標 | 1. 生涯にわたってスポーツを実践するための知識・技能を修得する。 2. 現代生活におけるスポーツの意義を理解する。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | 授業概要の説明。基本的野外生活実習(テント設営手順の理解など) | |
| | 2 | 自然を利用した体験型ゲームの体験と指導法の理解 | |
| | 3 | 学外実習の準備と話し合い | |
| | 4 | 基本的野外生活実習(テント設営・その他) | |
| | 5 | 自然を利用した遊び体験 | |
| | 6 | 野外炊事(夕食) | |
| | 7 | ふりかえり活動 | |
| | 8 | 登山(沢登り) | |
| | 9 | 野外炊事 | |
| | 10 | キャンプファイヤーの準備 | |
| | 11 | キャンプファイヤーの実践 | |
| | 12 | 野外炊事 | |
| | 13 | 環境教育プログラムの実践 | |
| | 14 | 環境教育活動の発表 | |
| | 15 | 実習全体のふりかえり学習・かたづけ | |
| テキスト・参考書 | 「野外活動 その考え方と実際」日本野外教育研究会編、杏林書院(2001) | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 配点比率:授業への参加度(40)、基本技術の習得(20)、積極性(20)、レポート(20) | | |

| | | | |
|--------------------------|--|--|------------------------|
| 授業科目名: 生涯スポーツ実習ⅡA | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:1単位 | 担当教員名:伊藤 千草 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 体育 | | |
| 授業の概要 | 前期生涯スポーツ実習ⅡA(テニス)の復習と応用を行う。レベルに合わせて練習を行い、個人の能力にあったゲームを楽しめるよう指導する。 | | |
| 授業の到達目標 | テニスのダブルスゲームを一定のレベルで行うための技能と知識を獲得するとともに、テニスを生涯スポーツとして楽しめる素地を築くことを目標とする。 各自が積極的にコミュニケーションをとり、実習を通して社会的自立心を養う。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーション (授業の進め方、評価の方法他) | |
| | 2 | テニスの基本 (ラケットの扱い方・ミニストローク) | |
| | 3 | ストロークの練習1 (フォアハンド) | |
| | 4 | ストロークの練習2 (フォアハンド、バックハンド、ロングストローク組み合わせ) | |
| | 5 | ストロークの練習3 (ダブルスミニゲーム) | |
| | 6 | ボレーの練習・反復練習 (フォアハンドボレー、バックハンドボレー) | |
| | 7 | ボレーとストロークの練習・反復練習・ミニゲーム (ラリー、フットワークをつかった練習) | |
| | 8 | サーブとスマッシュの練習。反復練習・ミニゲーム (スイングの基本) | |
| | 9 | 応用練習 (さまざまなスキルを使ったダブルスミニゲーム) | |
| | 10 | ダブルスの練習1 (ルール、ゲームの進め方、陣形) | |
| | 11 | ダブルスの練習2 (パターン練習) | |
| | 12 | ダブルスゲーム1 能力に合わせた組み合わせ(実践的練習) | |
| | 13 | ダブルスゲーム2 全体での組み合わせ | |
| | 14 | まとめ・レポート作成 | |
| | 15 | 救急救命法 | |
| | ※一部授業回を変更して実施する予定です。 | | |
| テキスト・参考書 | 硬式テニスの基本と練習法 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 授業への出席状況及び、参加態度(80%)、レポート提出(20%)を重視し、授業への取り組みとの総合評価とする。 | | |

| | | | |
|-----------------------|--|---|------------------------|
| 授業科目名: 生涯スポーツ実習ⅡB | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:1単位 | 担当教員名:大島 秀武 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 体育 | | |
| 授業の概要 | 屋外球技(主にソフトボールとサッカー)の実習を通して、それぞれをプレイするための基礎的な技能、ルールと戦術、ゲームの運営方法、参加者の条件に応じたバリエーションづくりの方法を学ぶ。 | | |
| 授業の到達目標 | 1. 生涯にわたってスポーツを実践するための知識・技能を修得する。 2. スポーツ活動を運営するための基本的な知識・技能を修得する。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | ソフトボール:個人的技能の向上を目標とする練習とゲーム1(送球と捕球) | |
| | 2 | ソフトボール:個人的技能の向上を目標とする練習とゲーム(基本のバッティング) | |
| | 3 | ソフトボール:個人的技能の向上を目標とする練習とゲーム(力強いバッティング/強い打球の捕球) | |
| | 4 | ソフトボール:集団的技能の向上を目標とする練習とゲーム1(進塁打/守備の連携) | |
| | 5 | ソフトボール:集団的技能の向上を目標とする練習とゲーム2(状況に応じたバッティング/守備のポジショニング) | |
| | 6 | ソフトボール:まとめのゲーム | |
| | 7 | サッカー:個人的技能の向上を目標とする練習とゲーム1(基本のパス) | |
| | 8 | サッカー:個人的技能の向上を目標とする練習とゲーム2(ボール回しと基本のシュート) | |
| | 9 | サッカー:個人的技能の向上を目標とする練習とゲーム3(つなぎプレーからのシュート) | |
| | 10 | サッカー:集団的技能の向上を目標とする練習とゲーム1(サイド攻撃の意識) | |
| | 11 | サッカー:集団的技能の向上を目標とする練習とゲーム2(スペースの活用/オフサイドをめぐる攻防) | |
| | 12 | サッカー:まとめのゲーム | |
| | 13 | 屋外球技のバリエーションづくり | |
| | 14 | 救急救命法 | |
| | 15 | 体力運動能力テスト(反復横跳び、シャトルラン、他) | |
| | ※一部授業回を変更して実施する予定です。 | | |
| テキスト・参考書 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは使用しない。 ・以下を参考書として要点を適宜紹介する。 文部科学省(2017)「小学校学習指導要領解説 体育編」 文部科学省(2017)「中学校学習指導要領解説 保健体育編」 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | <ul style="list-style-type: none"> ・運動技能30% ・競技規則、戦術、練習方法についての理解30% ・授業(準備・片付けを含む)への主体的な参加20% ・学期末課題20%:未提出者は評価の対象としない | | |

| | | | |
|-----------------------|---|--|------------------------|
| 授業科目名: 生涯スポーツ実習ⅡC | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:1単位 | 担当教員名:森井 裕子 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 体育 | | |
| 授業の概要 | 健康への危機感が高まる現代社会、フィットネス(健康づくりの為の運動)プログラムの実習、及び健康の為の運動の効果的かつ安全な方法について学習する。一方、フィットネスとして活用される運動は、ジョギングや筋力トレーニングといった従来の形式から、ヨガ、ダンス、ピラティスなど、そのニーズに応じて多様化している。それらは、単に健康のための運動という枠組みを超えて、人々の楽しみ、快経験として普及をしている。本授業では、フィットネスの基本的内容にその要素を加味しながら行う。 | | |
| 授業の到達目標 | 1)体を動かす楽しさを感じ、積極的に運動に取り組むことができる。 2)フィットネス(健康づくりの為の運動)の実習やフィットネスに関する理論学習を通して運動への理解を深め、効果的な運動の実践能力を高める。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーション(全体、選択種目による説明) | |
| | 2 | 運動実践と知識・スキルに関する基礎学習1:体力についての基礎知識と実習 | |
| | 3 | 運動実践と知識・スキルに関する基礎学習2:健康とフィットネスについての基礎知識と実習 | |
| | 4 | 運動実践と知識・スキルに関する基礎学習3:トレーニングの原則についての基礎知識と実習 | |
| | 5 | 運動実践と知識・スキルに関する基礎学習4:ウォーミングアップについての基礎知識と実習 | |
| | 6 | 運動実践と知識・スキルに関する基礎学習5:運動のモニタリングについての基礎知識と実習 | |
| | 7 | 運動実践と知識・スキルに関する基礎学習6:身体の構造と運動効果についての基礎知識と実習 | |
| | 8 | 運動実践と知識・スキルに関する基礎学習7:運動の計画についての基礎知識と実習 | |
| | 9 | 運動実践と知識・スキルに関する基礎学習8:自己評価についての基礎知識と実習 | |
| | 10 | 各自で計画したプログラムに沿った運動実践1:個人トライアルと自己評価 | |
| | 11 | 各自で計画したプログラムに沿った運動実践2:グループトライアルと評価 | |
| | 12 | 各自で計画したプログラムに沿った運動実践3:修正した個人トライアル,グループトライアルの評価 | |
| | 13 | 各自で計画したプログラムに沿った運動実践4:総合実習と評価 | |
| | 14 | フィットネスプログラムについてのまとめ | |
| 15 | 救急救命法 | | |
| | ※一部授業回を変更して実施する予定です。 | | |
| テキスト・参考書 | 【参考図書】心と身体の健康・スポーツ:大修館書店 他必要に応じ資料を適宜配布する。 尚、課題へ取り組む際は自主的に参考書を探ることが望ましい | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 授業参加への意欲・関心・態度...70% 課題の提出...30% | | |

| | | | |
|--------------------------|---|--|------------------------|
| 授業科目名: 生涯スポーツ実習ⅡD | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:1単位 | 担当教員名:飯田 陽子 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 体育 | | |
| 授業の概要 | 生涯スポーツの視点から、年代、性別、スポーツ経験など、様々に異なる状況、幅広い対象に対して、ともにスポーツを楽しむ技術や態度を身につける。レクリエーションスポーツ(各種ゲームやニュースポーツを含む)を紹介するとともに、実施における展開方法および留意点を学習する。 | | |
| 授業の到達目標 | 1. 生涯にわたってスポーツを実践するための知識・技能を修得する。 2. スポーツ活動を運営するための基本的な知識・技能を修得する。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | 導入、授業の進め方『楽しい』『役に立つ』をテーマに授業を展開していく) | |
| | 2 | アイスブレイク(緊張をほぐす)ゲームの体験1 初対面の集集体対象 | |
| | 3 | アイスブレイク(緊張をほぐす)ゲームの体験2 障がい者(児)施設対象 | |
| | 4 | レクリエーションスポーツの体験 昔なつかしの子どもの遊びゲーム1 小学生対象 | |
| | 5 | レクリエーションスポーツの体験 昔なつかしの子どもの遊びゲーム2 高齢者対象 | |
| | 6 | レクリエーションスポーツの体験 信頼関係を築くゲーム1 中学生対象 | |
| | 7 | レクリエーションスポーツの体験 信頼関係を築くゲーム2 高校生対象 | |
| | 8 | 生涯スポーツにおけるレクリエーションスポーツの理解 身体ほぐし | |
| | 9 | レクリエーションスポーツの立案・運営の基礎 グループでゲームの企画・実施・評価1 保育所・幼稚園対象 | |
| | 10 | レクリエーションスポーツの立案・運営の基礎 グループでゲームの企画・実施・評価2 小学校(低学年)対象 | |
| | 11 | レクリエーションスポーツの立案・運営の基礎 個人でゲームの企画・実施・評価1・実践 小学校(中学年)対象 | |
| | 12 | レクリエーションスポーツの立案・運営の基礎 個人でゲームの企画・実施・評価2・実践 小学校(高学年)対象 | |
| | 13 | レクリエーションスポーツの立案・運営の基礎 個人でゲームの企画・実施・評価3・実践 中学校・高等学校対象 | |
| | 14 | レクリエーションスポーツの立案・運営の基礎 個人でゲームの企画・実施・評価4・実践 高齢者対象 授業全体のまとめ | |
| | 15 | 救急救命法 | |
| | ※一部授業回を変更して実施する予定です。 | | |
| テキスト・参考書 | ・テキスト:「レクリエーション支援の基礎」 ・参考書については、授業時に適宜紹介するとともに、必要に応じてプリントを配布する。 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 配点比率:授業に対する積極性(60)、個人課題などへの取り組み(40) | | |

| | | | |
|--------------------------|---|----------------------|------------------------|
| 授業科目名: 生涯スポーツ実習ⅡE | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:1単位 | 担当教員名:大島 秀武 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 体育 | | |
| 授業の概要 | 生涯スポーツとして、雪の自然を活用したスキーを中心とした雪上活動の基本的な知識・技術を習得するとともに、安全を確保するための知識・マナーについても学習する。現地実習では実技と講義を行う。 | | |
| 授業の到達目標 | 1. 生涯にわたってスポーツを実践するための知識・技能を修得する。 2. 現代生活におけるスポーツの意義を理解する。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | スキーにおける基本的知識の習得 | |
| | 2 | スキーの基本的技術の理解と習得 | |
| | 3 | スキー活動における安全管理の理解 | |
| | 4 | 緊急事態の対処と救急処置の体験 | |
| | 5 | スキー実技(基本的操作) | |
| | 6 | スキー実技(下肢の動き) | |
| | 7 | スキー実技(上体の動き) | |
| | 8 | スキー実技(斜面に合わせた操作) | |
| | 9 | スキー実技(スピードに対応した動き) | |
| | 10 | スキー実技(多様な練習法の理解) | |
| | 11 | スキー実技(遊びを取り入れたスキー学習) | |
| | 12 | スキー実技(フィードバック学習の理解) | |
| | 13 | 雪上活動実技(イグルー作り等) | |
| | 14 | 宿泊を伴う実習の体験と理解 | |
| | 15 | まとめとふりかえり | |
| テキスト・参考書 | (参考書)「日本スキー教程」全日本スキー連盟(2024) | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 配点比率:授業への参加度(40)、基本技術の習得(20)、積極性(20)、レポート(20) | | |

| | | | |
|------------------------|---|--|---|
| 授業科目名: 英語コミュニケーションA | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:1単位 | 担当教員名: オーバマイヤー・アンドリュウ、藤井 佳子、市場 史哉、境 倫代、磯部 達彦、ベティ・ラウ、小川 一美 担当形態:クラス分け・単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 外国語コミュニケーション | | |
| 授業の概要 | この授業では、様々なトピックに焦点を当てて、英語のリスニング、スピーキング、クリティカルシンキング、プレゼンテーションのスキルを養成します。また、オンラインでもディスカッションに取り組みます。 | | |
| 授業の到達目標 | (1) さまざまな英語のプレゼンテーションやディスカッションを聴いて分析することで、リスニング力を向上させることができる。 (2) 短い英語でのやり取りを行うことで、自分の考えを英語で発表することができる。 (3) クラス内のディスカッションやのインターネットフォーラムを通じて、トピックに関する意見を英語で共有することができる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | Introduction | |
| | 2 | Unit One (Business): "Team Success" (A, B) Vocabulary & Viewing Start Forum 1: Self Introductions and Teamwork Examples | |
| | 3 | Unit One (Business): "Team Success" (C, D) Language Awareness & Communication | |
| | 4 | Unit One (Business): "Team Success" (E, F, G) Critical Thinking Vocabulary Quiz One | |
| | 5 | Unit Two (The Environment): "Power of One" (A, B) Vocabulary & Viewing | |
| | 6 | Unit Two (The Environment): "Power of One" (C, D, E) Language Awareness & Communication | |
| | 7 | Unit Two (The Environment): "Power of One" (F, G, H) Critical Thinking Vocabulary Quiz Two (Review One) | |
| | 8 | Role Play Performance #1: Choose one of the following topics "What makes a good team?" (from Unit One) or "How can I make a difference in protecting our environment?" (from Unit Two) Finish Forum 1 | |
| | 9 | Unit Three (Career Paths): "Big Decisions" (A, B) Vocabulary & Viewing Start Forum 2: Career Choices and Future Goals | |
| | 10 | Unit Three (Career Paths): "Big Decisions" (C, D, E) Language Awareness & Communication | |
| | 11 | Unit Three (Career Paths): "Big Decisions" (F, G, H) Critical Thinking Vocabulary Quiz Three (Review One & Two) | |
| | 12 | Unit Four (Technology): "Changed By Technology" (A, B) Vocabulary & Viewing | |
| | 13 | Unit Four (Technology): "Changed By Technology" (C, D, E) Language Awareness & Communication | |
| | 14 | Unit Four (Technology): "Changed By Technology" (F, G, H) Critical Thinking | |
| | 15 | Wrap-up Vocabulary Quiz Four (Review One, Two, Three) | |
| | 試験 | | |
| テキスト・参考書 | Blass, L. & Baker, L. (2023) 21st Century Communication 1. National Geographic Learning. ISBN: 978-0-357-85597-3 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 80% 平常点(課題提出、小テスト、フォーラム参加、授業への積極的な参加態度等) 20% 定期試験 | | |

| | | | |
|------------------------|---|--|--|
| 授業科目名: 英語コミュニケーションB | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:1単位 | 担当教員名: オーバマイヤー・アンドリュウ、藤井 佳子、市場 史哉、境 倫代、磯部 達彦、ベティ・ラウ、小川 一美 |
| | | | 担当形態:クラス分け・単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 外国語コミュニケーション | | |
| 授業の概要 | この授業では、様々なトピックに焦点を当てて、英語のリスニング、スピーキング、クリティカルシンキング、プレゼンテーションのスキルを養成します。また、オンラインでもディスカッションに取り組みます。 | | |
| 授業の到達目標 | (1) さまざまな英語のプレゼンテーションやディスカッションを聴いて分析することで、リスニング力を向上させることができる。 (2) 短い英語でのやり取りを行うことで、自分の考えを英語で発表することができる。 (3) クラス内のディスカッションやのインターネットフォーラムを通じて、トピックに関する意見を英語で共有することができる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | Introduction | |
| | 2 | Unit 5 "Give Thanks" (A, B) Vocabulary & Viewing | |
| | 3 | Unit 5 "Give Thanks" (C, D, E) Language Awareness & Communication | |
| | 4 | Unit 5 "Give Thanks" (F, G, H) Critical Thinking | |
| | 5 | Unit 6 "Learning Better" (A, B) Vocabulary & Viewing | |
| | 6 | Unit 6 "Learning Better" (C, D, E) Language Awareness & Communication | |
| | 7 | Unit 6 "Learning Better" (F, G, H) Critical Thinking | |
| | 8 | Role Play Performance #1: Choose one of the following topics Finish Forum 1 | |
| | 9 | Unit 7 "The Livable City" (A, B) Vocabulary & Viewing | |
| | 10 | Unit 7 "The Livable City" (C, D, E) Language Awareness & Communication | |
| | 11 | Unit 7 "The Livable City" (F, G, H) Critical Thinking | |
| | 12 | Unit 8 "Every Voice Matters" (A, B) Vocabulary & Viewing | |
| | 13 | Unit 8 "Every Voice Matters" (C, D, E) Language Awareness & Communication | |
| | 14 | Unit 8 "Every Voice Matters" (F, G, H) Critical Thinking | |
| | 15 | まとめ Vocabulary Quiz Eight (Review Five, Six, Seven) | |
| | 試験 | | |
| テキスト・参考書 | Blass, L. & Baker, L. (2023) 21st Century Communication 1. National Geographic Learning. ISBN: 978-0-357-85597-3 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 80% 平常点(課題提出、小テスト、フォーラム参加、授業への積極的な参加態度等) 20% 定期試験 | | |

| | | | |
|--------------------------|--|-----------------------|------------------------|
| 授業科目名: ドイツ語コミュニケーションA | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:1単位 | 担当教員名:馬場 綾香 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 外国語コミュニケーション | | |
| 授業の概要 | 初学者を対象とし、「話す」「聞く」を中心にドイツ語を学ぶ授業です。対話練習や聞き取り練習などを通じて表現や語彙を習得し、ドイツ語のコミュニケーション能力を総合的に身につけることを目標とします。また、映像資料などを使ってドイツの文化についても理解を深めることを目指します。 | | |
| 授業の到達目標 | 1. 簡単なドイツ語の文を覚えて使えるようになること。 2. ドイツ語の基礎的な文法が理解できること。 3. ドイツ語圏の社会・文化についての知識を得ること。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | ガイダンス ドイツ語のアルファベットと発音 | |
| | 2 | 第1課 あいさつ | |
| | 3 | 第1課 名前や出身地について話す | |
| | 4 | 第2課 人を紹介する | |
| | 5 | 第2課 専攻や科目について話す | |
| | 6 | 第3課 好きな食べ物や飲み物を言う | |
| | 7 | 第3課 一日の食事について話す | |
| | 8 | 第4課 趣味やしたいことを言う | |
| | 9 | 第4課 メールを読んで返事を書く | |
| | 10 | 第5課 家族を紹介する | |
| | 11 | 第5課 職業について話す | |
| | 12 | 第6課 持ち物について尋ねる | |
| | 13 | 第6課 買い物する | |
| | 14 | 前期のまとめ(1) 自分のことを話す | |
| | 15 | 前期のまとめ(2) 夏休みのことを話す | |
| | 試験 | | |
| テキスト・参考書 | テキスト: 佐藤修子、下田恭子、岡崎朝美、Gesa Oldehaver、Daniel Arnold、Thoralf Heinemann 『新・スツェーネン1』三修社2022 ISBN 978-4-384-12308-1 C1084 辞書については初回授業で説明します。3週目までを目途に入手してください。 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | ・平常点60%(予習・復習・小テスト・授業への参加度)と定期試験40%で総合評価します。 ・単位取得のために全15回の授業のうち10回以上の出席が必要です。 | | |

| | | | |
|--------------------------|---|---------------------------|------------------------|
| 授業科目名: ドイツ語コミュニケーションB | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:1単位 | 担当教員名:馬場 綾香 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 外国語コミュニケーション | | |
| 授業の概要 | 「ドイツ語コミュニケーションA」の続きです。「話す」「聞く」を中心にドイツ語を学ぶ授業です。対話練習や聞き取り練習などを通じて表現や語彙を習得し、ドイツ語のコミュニケーション能力を総合的に身につけることを目標とします。また、映像資料などを使ってドイツの文化についても理解を深めることを目指します。 | | |
| 授業の到達目標 | 1. 簡単なドイツ語の文を覚えて使えるようになること。 2. ドイツ語の基礎的な文法が理解できること。 3. ドイツ語圏の社会・文化についての知識を得ること。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | ガイダンス 「ドイツ語コミュニケーションA」の復習 | |
| | 2 | 第7課 休暇のことを話す | |
| | 3 | 第7課 メールを読んで返事を書く | |
| | 4 | 第8課 住宅について話す | |
| | 5 | 第8課 家具や配置を説明する | |
| | 6 | 第9課 時刻を言い予定を話す | |
| | 7 | 第9課 日付や誕生日を言う | |
| | 8 | 第10課 道案内する | |
| | 9 | 第10課 大学生活について話す | |
| | 10 | 第11課 休暇の予定を述べる | |
| | 11 | 第11課 手紙を書く | |
| | 12 | 第12課 体験を述べる | |
| | 13 | 第12課 過去のことを話す | |
| | 14 | 後期のまとめ(1)1日のことを話す | |
| | 15 | 後期のまとめ(2)冬休みのことを話す | |
| | 試験 | | |
| テキスト・参考書 | テキスト:佐藤修子、下田恭子、岡崎朝美、Gesa Oldehaver、Daniel Arnold、Thoralf Heinemann 『新・スツェーネン1』三修社2022 ISBN 978-4-384-12308-1 C1084 (※前期「ドイツ語コミュニケーションA」の教科書を継続して使用します。) | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | ・平常点60%(予習・復習・小テスト・授業への参加度)と定期試験40%で総合評価します。 ・単位取得のために全15回の授業のうち10回以上の出席が必要です。 | | |

| | | | |
|---------------------------|--|------------------------------|------------------------|
| 授業科目名: フランス語コミュニケーションA | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:1単位 | 担当教員名:洪 明徹口 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 外国語コミュニケーション | | |
| 授業の概要 | フランス語初学者を対象とし、担当教員や他の受講生とのコミュニケーションを通じて、平易で日常的なフランス語の表現能力を身につけることを目指す授業です。到達目標の設定は複言語・複文化主義に基づき、大筋においてCEFRのpre-A1レベルに準拠します。フランスおよびフランス語圏の文化にも触れながら、楽しくフランス語に親しみます。 | | |
| 授業の到達目標 | 「聞く・話す・読む・書く」の全ての面にわたり、平易で日常的なフランス語を使うことができる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーション | |
| | 2 | Leçon 01 フランス語の基礎 | |
| | 3 | Leçon 02 自己紹介をする | |
| | 4 | Leçon 03 今住んでいるところや出身地について話す | |
| | 5 | Leçon 04 交通手段について話す | |
| | 6 | 小テストその1 | |
| | 7 | Leçon 05 アルバイトについて話す | |
| | 8 | Leçon 06 ペットなどについて話す | |
| | 9 | Leçon 07 家族について話す | |
| | 10 | Leçon 08 家事について話す | |
| | 11 | 小テストその2 | |
| | 12 | Leçon 09 時間について話す | |
| | 13 | Leçon 10 食べ物について話す | |
| | 14 | Leçon 11 科目・先生について話す | |
| | 15 | Leçon 12 クラブ活動について話す | |
| | | 試験 | |
| テキスト・参考書 | Bruno Vannieuwenhuysse, 他『Moi, je... コミュニケーションA1』アルマ出版 その他、必要に応じて適宜資料を配布します。 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 授業の到達目標を達成できているかを評価します。評価要素およびその配点比率は以下の通りです。 ①授業内での参加度(30%)、②授業内で実施する小テスト(30%)、③期末テスト(40%) なお、欠席(やむを得ないものを除く)が5回以上になった場合、それまでの得点状況に関わらず評価は「不可」となります。 | | |

| | | | |
|---------------------------|--|--------------------------------------|------------------------|
| 授業科目名: フランス語コミュニケーションB | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:1単位 | 担当教員名:洪 明徹口 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 外国語コミュニケーション | | |
| 授業の概要 | 前期「フランス語コミュニケーションA」に引き続き、担当教員や他の受講生とのコミュニケーションを通じて、日常的なフランス語の表現能力を身につけることを目指す授業です。到達目標の設定は複言語・複文化主義に基づき、大筋においてCEFRのA1レベルに準拠します。フランスおよびフランス語圏の文化にも触れながら、楽しくフランス語に親しみます。 | | |
| 授業の到達目標 | 「聞く・話す・読む・書く」の全ての面にわたり、日常的なフランス語を使うことができる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | 前期の復習 | |
| | 2 | Leçon 13 週末の過ごし方について話す | |
| | 3 | Leçon 14 休暇中の活動について話す | |
| | 4 | Leçon 15 経験について話す | |
| | 5 | Leçon 16 地理や食文化について話す | |
| | 6 | 小テストその1 | |
| | 7 | Leçon 17 天気について話す | |
| | 8 | Leçon 18 好みについて話す | |
| | 9 | Leçon 21 人を誘う | |
| | 10 | Leçon 22 買い物をする | |
| | 11 | 小テストその2 | |
| | 12 | Leçon 23 レストランを予約する | |
| | 13 | Leçon 24 道を尋ねる | |
| | 14 | Leçon 19 総復習1(01~09課までの既習文法をつかった対話文) | |
| | 15 | Leçon 20 総復習2(10~18課までの既習文法をつかった対話文) | |
| | 試験 | | |
| テキスト・参考書 | Bruno Vannieuwenhuysse, 他『Moi, je... コミュニケーションA1』アルマ出版 その他、必要に応じて適宜資料を配布します。 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 授業の到達目標を達成できているかを評価します。評価要素およびその配点比率は以下の通りです。 ①授業内での参加度(30%)、②授業内で実施する小テスト(30%)、③期末テスト(40%) なお、欠席(やむを得ないものを除く)が5回以上になった場合、それまでの得点状況に関わらず評価は「不可」となります。 | | |

| | | | |
|-------------------------|--|--|--------------------|
| 授業科目名: 中国語コミュニケーションA | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:1単位 | 担当教員名: 鄭 霞清、佟 華 |
| | | | 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 外国語コミュニケーション | | |
| 授業の概要 | この授業は中国語の入門編として、発音と簡単な日常挨拶から入り、場面ごとの日常会話の練習を通じて、基礎文法や語彙を習得するとともに、中国の歌、映像などで中国文化に触れながら、異文化に対する理解を深め、実践的なコミュニケーション能力を育成する。 | | |
| 授業の到達目標 | 1.発音と発音表記のピンインを覚えた上に、四つの声調を区別できるようにして、基本的な語彙とキーポイントを習得する。それから簡単な中国語の文を聴いて意味を理解することができる事と簡単な中国語の文を口に出して言うことができる事を目指してコミュニケーションするのに必要な表現等を覚える。 2.言葉を通して中国事情や文化に触れ、それによって言葉を理解するのに役立つ背景知識を身につける。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | ガイダンス 中国語の特徴、授業の内容、到達目標および授業方法などについて説明する。単母音と声調の発音と表記の仕方、ミニ会話① | |
| | 2 | 子音と複母音の発音と表記の仕方、ミニ会話② | |
| | 3 | 鼻母音と変調などの発音と表記の仕方、ミニ会話③ | |
| | 4 | 発音のまとめ、ミニ会話④ | |
| | 5 | 第1課「あなたは中国人ですか」① 単語と文法ポイント(「是」の文) | |
| | 6 | 第1課「あなたは中国人ですか」② 会話と応用練習 | |
| | 7 | 第2課「これは何ですか」① 単語と文法ポイント(疑問文、副詞など) | |
| | 8 | 第2課「これは何ですか」② 会話と応用練習 | |
| | 9 | 第3課「あなたはどこに行きますか」① 単語と文法ポイント(動詞文、省略疑問文など) | |
| | 10 | 第3課「あなたはどこに行きますか」② 会話と応用練習 | |
| | 11 | 第4課「このバッグはいくらですか」① 単語と文法ポイント(形容詞文など) | |
| | 12 | 第4課「このバッグはいくらですか」② 会話と応用練習 | |
| | 13 | 第5課「あなたは夜用事がありますか」① 単語と文法ポイント(日付、時刻の表現など) | |
| | 14 | 第5課「あなたは夜用事がありますか」② 会話と応用練習 | |
| | 15 | 総まとめ-いままでの文法事項、単語、会話などの習得状況を確認します。 | |
| | | 試験 | |
| テキスト・参考書 | 『中国語はじめの一步』竹島金吾監修、尹景春他著 白水社 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 平常点(授業態度、小テストなど総合的に評価する)60%+期末試験40% | | |

| | | | |
|--------------------------|--|--|--------------------|
| 授業科目名: 中国語コミュニケーションB | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:1単位 | 担当教員名: 鄭 霞清、佟 華 |
| | | | 担当形態:単独 |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 外国語コミュニケーション | | |
| 授業の概要 | この授業は中国語コミュニケーションAの引き続きとして、語彙量や文法力を増やしなが、場面ごとの日常会話表現を練習し、中国の歌、映像などで中国文化に触れながら、異文化に対する理解を深め、実践的なコミュニケーション能力を育成する。 | | |
| 授業の到達目標 | 1.ピンインの発音と表記の仕方を繰り返して練習し、文法や語彙と表現を増やした上に、より円滑的にコミュニケーションができるようになる。 2.さらにネットに使う中国語アプリなどを紹介しながら、中国事情・文化に触れ、言葉の理解に役立つ背景知識を広げる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | 第6課「貴方は食事をしましたか。」① 単語と文法ポイント(「完了」、「所在」、助動詞<1>) | |
| | 2 | 第6課「貴方は食事をしましたか。」② 会話と応用練習 | |
| | 3 | 第7課「ご家族は何人ですか。」① 単語と文法ポイント(介詞<1>、「存在」、反復疑問文など) | |
| | 4 | 第7課「ご家族は何人ですか。」② 会話文と応用練習 | |
| | 5 | 第8課「貴方は何時からアルバイトを始めますか。」① 単語と文法ポイント(介詞<2>、「時間量」、助動詞<2>など) | |
| | 6 | 第8課「貴方は何時からアルバイトを始めますか。」② 会話と応用練習 | |
| | 7 | 第9課「貴方はアメリカに行ったことがありますか。」① 単語と文法ポイント(介詞<3>、「経験」など) | |
| | 8 | 第9課「貴方はアメリカに行ったことがありますか。」② 会話と応用練習 | |
| | 9 | 第10課「貴方は歌を歌えますか。」① 単語と文法ポイント(「動作の様態」、動詞の重ね型、助動詞<3>など) | |
| | 10 | 第10課「貴方は歌を歌えますか。」② 会話と応用練習 | |
| | 11 | 第11課「貴方は何をしていますか。」① 単語と文法ポイント(「動作の進行、方向」など) | |
| | 12 | 第11課「貴方は何をしていますか。」② 会話と応用練習 | |
| | 13 | 第12課「楽しい旅行を!」① 単語と文法ポイント(「比較」、2つの目的語をとる動詞など) | |
| | 14 | 第12課「楽しい旅行を!」② 会話と応用練習 | |
| | 15 | 総まとめ | |
| | | 試験 | |
| テキスト・参考書 | 『中国語ははじめの一步』竹島金吾/監修 尹景春・竹島毅/著 白水社 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 平常点(授業態度、小テストなど総合的に評価する)60%+期末試験40% | | |

| | | | |
|--------------------------|--|----------------------------|---------------------------------|
| 授業科目名: 数理・データサイエンス・AI | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名: 多田 知正、伊藤 伸一、 赤川 佳穂 |
| | | | 担当形態:クラス分け・オムニバス |
| 科 目 | 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 数理、データ活用及び人工知能に関する科目 | | |
| 授業の概要 | 誰もがAIやデータサイエンスを利用する時代において、学校教員として必要となる基本的な事項についての講義および演習を行う。 | | |
| 授業の到達目標 | 社会におけるデータ、AIの活用事例やその基礎となる技術について基本的な知識およびスキルを身につける。 さらに学校現場において、必要に応じデータ分析などの活動を取り入れ適切に指導することができる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | ガイダンス(担当 多田知正、伊藤伸一、赤川佳穂) | |
| | 2 | データ駆動型社会への変化(担当 伊藤伸一) | |
| | 3 | 社会で活用されているデータ(担当 伊藤伸一) | |
| | 4 | データ・AIの活用事例(担当 伊藤伸一) | |
| | 5 | データ・AIの技術(担当 伊藤伸一) | |
| | 6 | データの収集、集計、可視化(担当 伊藤伸一) | |
| | 7 | データ・AIを扱う際の注意(担当 赤川佳穂) | |
| | 8 | データ・AIに関するセキュリティ(担当 赤川佳穂) | |
| | 9 | データ・AIのための数学(担当 赤川佳穂) | |
| | 10 | アルゴリズム(担当 赤川佳穂) | |
| | 11 | データ構造とプログラミング(演習)(担当 多田知正) | |
| | 12 | データベースの操作(演習)(担当 多田知正) | |
| | 13 | データの分析(演習)(担当 多田知正) | |
| | 14 | 機械学習の基礎(演習)(担当 多田知正) | |
| | 15 | 機械学習の実践(演習)(担当 多田知正) | |
| テキスト・参考書 | [テキスト] はじめてのAIリテラシー 岡島 裕史、吉田雅裕(著)、技術評論社、ISBN:978-4297120382 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 提出課題(100%) 授業の進行にあわせて、定期的にレポート等の課題提出を求める。 欠席・遅刻が多いと単位の取得は困難になる。 | | |

| | | | |
|--------------------------|--|------------------------|----------------------|
| 授業科目名: 教育の理念と歴史 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名: 神代 健彦、山本源大 |
| | | | 担当形態:クラス分け・単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 | | |
| 授業の概要 | 教職に携わる者には、自分自身のしごとを多面的・多角的に省察するための豊かな教養が必要である。この授業では、そのような教養の初歩として、主に教育の基本概念、教育の理念や思想とその現代的意義、教育の制度や事実の歴史的展開の3つについて学習することで、教職の基礎的な力量の形成を目指す。 | | |
| 授業の到達目標 | 教育の基本概念、教育の理念や思想、教育の制度や事実の歴史的展開について理解する。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | ガイダンス | |
| | 2 | 教育の基本概念(1):教育を語ることば | |
| | 3 | 教育の基本概念(2):教育を成り立たせるもの | |
| | 4 | 教育の思想(1):西洋思想の源流 | |
| | 5 | 教育の思想(2):宗教と教育 | |
| | 6 | 教育の思想(3):近代教育思想の黎明 | |
| | 7 | 教育の思想(4):近代教育思想の展開 | |
| | 8 | 教育の基本概念および思想についてのまとめ | |
| | 9 | 教育の歴史(1):近世以前の人間形成 | |
| | 10 | 教育の歴史(2):近代学校制度のはじまり | |
| | 11 | 教育の歴史(3):近代教育の思想と実践 | |
| | 12 | 教育の歴史(4):現代の教育 | |
| | 13 | 現代日本の教育課題(1):子どもと家族 | |
| | 14 | 現代日本の教育課題(2):学校と教師 | |
| 15 | まとめ | | |
| | | 試験(または最終レポート) | |
| テキスト・参考書 | 参考書:神代健彦・後藤篤・横井夏子『これからの教育学』有斐閣、2023年 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 中間テスト(あるいは中間レポート):30%、最終テスト(あるいは最終レポート):50% 授業への参加度(提出物等を含む):20% | | |

| | | | |
|-----------------------|--|---------------------------------|--|
| 授業科目名: 教職論 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名: 徳岡 慶一、中村 瑛仁、 榑原 禎宏 担当形態:クラス分け・単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) | | |
| 授業の概要 | 教育職員免許法における「教職に関する意義等」に対する科目であり、教育学科の教員が主として教職の理念、歴史や理論、現代的状況について講義します。また小・中学校の現職教員等が教職生活の実際について講義します。 | | |
| 授業の到達目標 | 現代社会における教職の重要性を認識し、教職の意義・教員の役割や職務内容等を知り、そのために必要な意欲・資質能力を高めること。このことを通じて、自らの進路選択や自らの教員像を広げ深められるようになること。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーションー教職という進路とキャリア | |
| | 2 | 教職の歴史 | |
| | 3 | 教職の実際 | |
| | 4 | 教員の職務と役割ー多様な児童・生徒への対応を求められる教職 | |
| | 5 | 教職の法制と制度 | |
| | 6 | 教職の意義と教員の役割(教職の機能と課題) | |
| | 7 | 教職の地位と身分(教員の職務内容・研修・サービス及び身分保障) | |
| | 8 | 授業づくり | |
| | 9 | クラス作りと生徒指導の実践の講義(小学校)(現職教員等) | |
| | 10 | クラス作りと生徒指導の実践の講義(中学校)(現職教員等) | |
| | 11 | クラス作りと生徒指導についての話し合い | |
| | 12 | 求められる教師像(現職教員等) | |
| | 13 | 学校と保護者・地域社会との連携・チーム学校(現職教員等) | |
| | 14 | 教師像と地域連携・チーム学校についての話し合い | |
| 15 | 全体ふりかえり 教職と自らの進路選択について | | |
| テキスト・参考書 | テキスト:なし 参考書:井藤元『ワークで学ぶ教職概論』ナカニシヤ出版、2017年など。中央教育審議会答申を参照。授業中に適宜紹介します。 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 授業における振り返り1/3、最終試験・レポート2/3。 なお、授業を4回以上欠席した場合、単位は取得できません。 | | |

| | | | |
|-----------------------|--|-------------------------------------|------------------------------|
| 授業科目名: 公教育経営論 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:榊原 禎宏 担当形態:クラス分け・単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) | | |
| 授業の概要 | 講義及び教員と学生また学生間での議論及びリフレクションを通じて、公教育制度とりわけ学校教育の原理・構造・機能と実際に関する法的・行財政的・経営的条件と現在の状況についての基本的事項、それらの課題と改善・改革の方略を扱うことを通じて、学生が理解を深めるとともにこれからの公教育のあり方を構想できる視野を得られるように支援する。 | | |
| 授業の到達目標 | 公教育および学校・学級経営の諸領域に関する基本知識と理解を得るとともに、これらの現状と課題を構成する言説と現実を分析さらに新たに構成する上での基礎的能力を獲得すること。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | 公教育経営の基本領域－公教育の原理と理念及び学校教育の役割 | |
| | 2 | 公教育経営の基本問題－経営方略と生成現象 | |
| | 3 | マクロレベルの観点から(1)公教育経営の理念と法規 | |
| | 4 | マクロレベルの観点から(2)公教育経営の行財政制度と教育政策の動向 | |
| | 5 | マクロレベルの観点から(3)学校改革論から見た公教育経営 | |
| | 6 | マクロレベルの観点から(4)諸外国の公教育制度とその経営 | |
| | 7 | メゾレベルの観点から(1)学校経営の枠組みとその効果・効率 | |
| | 8 | メゾレベルの観点から(2)学校評価と情報公開 | |
| | 9 | メゾレベルの観点から(3)PDCAサイクルと学校運営 | |
| | 10 | メゾレベルの観点から(4)学校経営における地域社会と住民との連携・協働 | |
| | 11 | ミクロレベルの観点から(1)教育業務の個業性と分業－協業性 | |
| | 12 | ミクロレベルの観点から(2)学校における多様な職種と「チーム学校」 | |
| | 13 | ミクロレベルの観点から(3)リスクマネジメント(危機管理)と学校安全 | |
| | 14 | ミクロレベルの観点から(4)学級経営と感情労働としての教育実践 | |
| | | 15 まとめ | |
| テキスト・参考書 | 村上祐介・勝野正章著『教育行政と学校経営[改訂新版]』(放送大学教育振興会、2024)、高見茂・服部憲児編著『教職教養講座 教育経営』(協同出版、2017) この他、適宜、指示します。 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 毎回の授業への参加と振り返り(60%)、ミニワーク(20%)、まとめのレポート(20%)で評価します。 | | |

| | | | |
|-----------------------|--|------------------------|------------------------------|
| 授業科目名: 教育社会学 | 教員の免許状取得のための 選択科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名:中村 瑛仁 担当形態:クラス分け・単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) | | |
| 授業の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、教育社会学の基本的な考え方とともに、現代社会における教育格差・教育の諸問題を捉える社会学的視点を身につける。あわせて学校と地域の連携、学校安全への対応に関する基礎的知識も学習する。 ・本授業では第一に、日本の「教育格差」について学ぶ。日本における学力や教育機会の格差を様々な統計データや社会的マイノリティの教育課題から学び、日本社会における教育格差の実態やその背景を考える。 ・第二に、現在社会における様々な「教育問題」を学習する。学力問題、いじめ、不登校、学校安全、地域連携、諸外国の教育事情、教育政策の動向など、現在、学校現場で求められるトピックを取り上げ、これからの教員に求められる役割・専門性を考える。 | | |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育社会学の基本的な用語を、実例をあげながら説明することができる。 ・日本の教育格差の実態について実例をあげて説明し、社会的マイノリティの子どもたちを支援するための教育実践・政策のあり方を考えることができる。 ・日本の教育問題についてテーマごとに要点を整理し、諸外国の教育事情や教育政策を参考にしながら、その問題に対応する方法を説明することができる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーション:教育社会学はどんな学問? | |
| | 2 | 日本の学力問題ーデータからみる教育格差 | |
| | 3 | 子どもの家庭環境と保護者の子育て | |
| | 4 | 子どもの貧困と教育 | |
| | 5 | 日本の高校と教育選抜 | |
| | 6 | 教育格差と不平等ー理論からみる教育格差 | |
| | 7 | 教育格差を是正する学校づくり・教育政策 | |
| | 8 | 教育格差のまとめと教育実践 | |
| | 9 | 子どもの非行1ー教育課題と背景 | |
| | 10 | 子どもの非行2ー教育支援の方法 | |
| | 11 | 子どものいじめ | |
| | 12 | 不登校1ー教育課題と背景 | |
| | 13 | 不登校2ー教育支援の方法 | |
| | 14 | 学校安全と地域連携 | |
| | 15 | 教師の専門性と学校づくり | |
| テキスト・参考書 | 参考書:若槻健・西田芳正編、2010『教育社会学への招待』大阪大学出版会。 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 中間レポート(50%)、期末レポート(50%)、などで評価します(5回以上の欠席は不可)。 | | |

| | | | |
|--------------------------|---|-------------------------|---|
| 授業科目名: 教育心理学 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名: 田爪 宏二、赤松 大輔、 安達 知郎、西山 慧 担当形態:クラス分け・単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 | | |
| 授業の概要 | 心理学の視点から、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程に関する代表的な理論や研究成果について、学校教育との関連を中心に論じる。その上で、主体的な学習を支える上で教師に求められる知見と、それを踏まえた教育実践のあり方について考察する。 | | |
| 授業の到達目標 | 1.幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する代表的理論及び教育における発達理解の意義を理解する。 2.各時期における発達の諸側面(運動、認知、言語、社会性等)の内容や特徴を理解する。 3.様々な学習の形態や概念及びその過程に関する基礎的な理論を理解する。 4.幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について理解する。 5.幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える支援について理解する。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | 教育心理学とは | |
| | 2 | 発達の基礎理論 | |
| | 3 | 心身の発達 ①乳幼児期 | |
| | 4 | 心身の発達 ②児童期 | |
| | 5 | 心身の発達 ③青年期以降 | |
| | 6 | 学びのメカニズム ①学習と知識獲得 | |
| | 7 | 学びのメカニズム ②認知的情報処理と記憶 | |
| | 8 | 学びのメカニズム ③動機づけと学習 | |
| | 9 | 教育心理学と教育実践 ①認知発達と学習支援 | |
| | 10 | 教育心理学と教育実践 ②学級集団と学習支援 | |
| | 11 | 教育心理学と教育実践 ③個性・個人差と学習支援 | |
| | 12 | 教育心理学と教育実践 ④教育評価 | |
| | 13 | 特別な支援と教育心理学 | |
| | 14 | 子どもの情緒・適応の理解と心理的支援 | |
| | 15 | 学校教育をとりまく諸問題と教育心理学 | |
| | 試験 | | |
| テキスト・参考書 | テキスト:田爪宏二編 教職エクササイズ 教育心理学 ミネルヴァ書房、 桜井茂男編 たのしく学べる最新教育心理学 第2版 図書文化 参考書:渡部雅之・豊田弘司 教育心理学 I :発達と学習(第2版) サイエンス社 無藤隆・大坪治彦・岡本祐子編 よくわかる発達心理学 ミネルヴァ書房 麻生武・浜田寿美男編 よくわかる臨床発達心理学 ミネルヴァ書房 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点) | 1)試験(60%) 2)小レポート等の提出状況と記述内容(30%) 3)授業への参加態度、積極性(10%) | | |

| | | | |
|-----------------------|---|--------------------------|---|
| 授業科目名: 特別支援教育 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名: 佐藤克敏、丸山啓史、佐藤美幸、 牛山道雄、鈴木英太、小谷裕実 担当形態:クラス分け・オムニバス |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 | | |
| 授業の概要 | 通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を概説する。 | | |
| 授業の到達目標 | 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | 特別支援教育の仕組み(佐藤克敏) | |
| | 2 | 特別支援教育の理念(佐藤克敏) | |
| | 3 | 障害のある子どもの教育の歩み(丸山啓史) | |
| | 4 | 発達障害の子どもの理解(佐藤美幸) | |
| | 5 | 発達障害の子どもの支援(佐藤美幸) | |
| | 6 | 通常の学級における特別支援教育(佐藤美幸) | |
| | 7 | 知的障害のある子どもの理解(牛山道雄) | |
| | 8 | 知的障害のある子どもの支援(牛山道雄) | |
| | 9 | 個別の指導計画と個別の教育支援計画(鈴木英太) | |
| | 10 | 通級による指導:自立活動を中心として(鈴木英太) | |
| | 11 | 特別支援学級の教育と対応(小谷裕実) | |
| | 12 | 特別支援学校の教育と対応(小谷裕実) | |
| | 13 | 家庭との連携(小谷裕実) | |
| | 14 | 教育と福祉の連携(丸山啓史) | |
| | 15 | 特別ニーズ教育の視点(丸山啓史) | |
| | 試験 | | |
| テキスト・参考書 | テキスト:京都教育大学教育創生リージョナルセンター機構総合教育臨床センター監修『新訂版教員になりた学生のためのテキスト特別支援教育』クリエイツかもがわ 参考書:なし | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 授業への参加度(20%) 試験(80%) | | |

| | | | |
|-----------------------|--|---------------------------------------|---|
| 授業科目名: 教育課程論 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名: 樋口 とみ子、徳永 俊太、 池田 恭浩 担当形態:クラス分け・単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。) | | |
| 授業の概要 | 学校教育において何をいつどのように教え学ぶのか。こうした問いにかかわるのが、各学校で編成する教育課程(カリキュラム)である。本授業では、教育課程編成の意義と具体的な方法について検討する。また、各学校の状況にもとづいて行うカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方について検討する。 | | |
| 授業の到達目標 | 1. 学校教育における教育課程の編成の役割・機能・意義について理解する。 2. 教育課程編成の基本的な原理と具体的な方法について理解する。 3. 学校全体を見渡して、組織的・計画的にカリキュラム・マネジメントを行うことの意義について理解する。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーション(教育課程とは何か) | |
| | 2 | 教育課程の編成原理(系統主義と経験主義) | |
| | 3 | 教育課程の構造(教科学習と総合的な学習の時間) | |
| | 4 | 教育課程の構造(教科と教科外) | |
| | 5 | 教育課程の改革をめぐる動向 | |
| | 6 | 教育課程改革の歴史(学習指導要領の変遷)①戦後初期のカリキュラム改革運動 | |
| | 7 | 教育課程改革の歴史(学習指導要領の変遷)②生活と科学の関係 | |
| | 8 | 教育課程改革の歴史(学習指導要領の変遷)③ゆとりと充実 | |
| | 9 | 教育課程改革の歴史(学習指導要領の変遷)④「新しい学力観」 | |
| | 10 | 教育課程改革の歴史(学習指導要領の変遷)⑤「生きる力」と総合的な学習の時間 | |
| | 11 | 教育課程改革の歴史(学習指導要領の変遷)⑥「確かな学力」と「知識基盤社会」 | |
| | 12 | 資質・能力にもとづく教育課程の編成方法 | |
| | 13 | 教育課程の評価 | |
| | 14 | カリキュラム・マネジメントの意義 | |
| 15 | まとめ | | |
| テキスト・参考書 | 【テキスト】小学校・中学校・高等学校学習指導要領、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(すべて、最新版) 【参考書】田中耕治編『よくわかる教育課程[第2版]』ミネルヴァ書房、2018年。 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 毎回の意見(30%)と最終レポート(70%) | | |

| | | | |
|-------------------------|---|----------------------------------|--------------------------|
| 授業科目名: 総合的な学習の時間の指導法 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名: 樋口 とみ子、大久保 紀一郎 |
| | | | 担当形態:クラス分け・単独 |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 総合的な学習(探究)の時間の指導法 | | |
| 授業の概要 | 総合的な学習(探究)の時間は、探究的な見方・考え方をを用いて、教科等横断的・総合的な学習を行うなかで、子どもたちがよりよく課題を解決し自己の生き方を考えていけることができるような資質・能力を育むことをめざすものである。本授業では、教科学習との関係を踏まえて、総合的な学習(探究)の時間の意義と課題について考察する。また実際に単元をつくる活動を通して、具体的な指導計画の作成や探究的な学習の指導方法、および評価に関する実践的な力量を高めることをめざす。 | | |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合的な学習(探究)の時間の意義を理解するとともに、各学校において目標や内容を定める際の考え方を理解する。 2. 総合的な学習(探究)の時間の指導計画の作成について、基本的な考え方と具体的な方法を身に付ける。 3. 総合的な学習(探究)の時間における探究的な学習の指導方法と評価の考え方について理解する。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーション(総合的な学習(探究)の時間を振り返る) | |
| | 2 | 総合的な学習(探究)の時間の歴史(導入された背景とその後の展開) | |
| | 3 | 総合的な学習(探究)の時間の特徴(学習指導要領における位置づけ) | |
| | 4 | 学校種別にみる実践例(小学校)実地指導講師 | |
| | 5 | 学校種別にみる実践例(中学校)実地指導講師 | |
| | 6 | 学校種別にみる実践例(高等学校) | |
| | 7 | 総合的な学習(探究)の時間の評価(基本的な考え方と最近の動向) | |
| | 8 | 単元づくり(目標の設定について:資質・能力の育成) | |
| | 9 | 単元づくり(単元の設定について) | |
| | 10 | 単元づくり(探究的な学習の過程について) | |
| | 11 | 単元づくり(主体的・対話的で深い学びについて) | |
| | 12 | 単元づくり(評価の具体的な方法について) | |
| | 13 | 発表会(指導案) | |
| | 14 | 発表会(模擬授業) | |
| 15 | まとめ(総合的な学習(探究)の時間と教科学習の関係) | | |
| テキスト・参考書 | <p>【テキスト】小学校・中学校・高等学校学習指導要領</p> <p>【参考書】京都教育大学教育支援センター「生活科・総合的学習」研究会編『生活科・総合的学習の理論と実践』東京教学社、2013年。</p> | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 参加状況、単元づくり、期末レポートについて、3:4:3の割合で評価する。 | | |

| | | | |
|-----------------------|--|---|---|
| 授業科目名: 特別活動の指導法 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名: 浅田 瞳、前田 学 担当形態:クラス分け・オムニバス |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 特別活動の指導法 | | |
| 授業の概要 | <p>1. 学校教育における特別活動の意義を理解し、講義・グループワークを通して自主的集团的活動のあり方について意見交流する。</p> <p>2. 小学校・中学校・高等学校における学級活動、児童会・生徒会活動、学校行事の具体例から、個を活かし集団を高める特別活動のあり方を考察する。</p> <p>3. 特別活動にかかわる具体的な事例をテーマとし、適切な指導や支援のあり方をグループ協議または全体協議の中で深め、ミニレポートを作成する。</p> | | |
| 授業の到達目標 | <p>学校教育における特別活動の意義を理解し、実践的指導力を身につけるために、小学校・中学校・高等学校の具体的実践事例をもとにした内容を中心とする。したがって、受講生のこれまでの教育経験を振り返り、自分自身の考え方を再構築してもらいたい。</p> <p>1. 学校教育活動における特別活動の意義と目標及び内容について理解できる。</p> <p>2. 児童・生徒の人格形成を図る自主的・自治的集団活動のあり方が、具体的実践事例を通して理解できる。</p> <p>3. 講義やグループ協議等の活動を通じて、教員に求められる資質や能力について考えることができる。</p> | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | 学習指導要領「特別活動」についての概要(歴史、目標、内容構成)(担当:浅田瞳、前田学) | |
| | 2 | 中学校・高等学校の特別活動の目標と内容(特別活動と学校生活・学級集団・学級づくり)(担当:浅田瞳) | |
| | 3 | 中学校・高等学校の学級経営における学級(HR)活動の内容と重要性(担当:浅田瞳) | |
| | 4 | 中学校・高等学校における学級風土および学級集団の状況と把握(担当:浅田瞳) | |
| | 5 | 中学校・高等学校における生徒会活動および学校行事の目標と内容・実践(担当:浅田瞳) | |
| | 6 | 義務教育学校・中等教育学校の特別活動の特色と内容(学校独自性の活用)(担当:浅田瞳) | |
| | 7 | 中学校における特別活動の年間指導内容および指導の重点(講師の講演)(担当:浅田瞳) | |
| | 8 | 学校教育の課題と特別活動のあり方(いじめ問題・学校安全)(担当:浅田瞳) | |
| | 9 | 小学校の特別活動の目標と内容(特別活動と学校生活・学級集団・学級づくり)(担当:前田学) | |
| | 10 | 小学校における学級活動の具体的な指導内容(よりよい人間関係を作るための学級活動)(担当:前田学) | |
| | 11 | 小学校の学級経営における学級活動の内容と重要性(担当:前田学) | |
| | 12 | 小学校における学級活動での話し合い活動の進め方(担当:前田学) | |
| | 13 | 小学校における児童会活動および異学年交流活動の目標と内容・進め方(担当:前田学) | |
| | 14 | 小学校における特別活動の年間指導内容および指導の重点(講師の講演)(担当:前田学) | |
| | 15 | 小学校におけるクラブ活動および学校行事の目標と内容・進め方(担当:前田学) | |
| テキスト・参考書 | <p>参考書</p> <p>小学校学習指導要領解説<特別活動編>(最新版)</p> <p>中学校学習指導要領解説<特別活動編>(最新版)</p> <p>高等学校学習指導要領解説<特別活動編>(最新版)</p> | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | <p>○ 授業への参加意欲・態度(50%)、ミニレポート(30%)、課題レポート(20%)にて評価する。</p> <p>○ レポートは、体験等を踏まえ、具体的かつ根拠を明示して論理的に構成されているかを観点に評価を行う。</p> <p>○ 課題レポート未提出者や出席状況不良の者は単位認定の対象としない(詳細は授業時に説明)。</p> | | |

| | | | |
|-----------------------|--|-------------------------------|--|
| 授業科目名: 教育方法・ICT活用論 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名: 徳岡 慶一、福嶋 祐貴 担当形態:クラス分け・単独 |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 | | |
| 授業の概要 | これからの社会を担っていく子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法・技術及びICT(情報通信技術)の活用に関する基礎的な項目を取り上げる。あわせて授業及び保育を教師の立場(教える立場)から捉え、教師としての見方・考え方を学ぶことによって、教員としての実践的指導力の基礎を培う。 | | |
| 授業の到達目標 | 教員としての実践的指導力の基礎を培うために、 1. 教育方法・技術に関する基礎的な知識・技能をもとに、教える立場から授業・保育を考えることができる。 2. 教育におけるICT活用の在り方を理解し、ICTを効果的に活用した教育を構想・実践することができる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | 授業を構成する要素、教えることと学ぶこと | |
| | 2 | 教育目標の設定 | |
| | 3 | 授業・保育の構想と教材研究・教科書分析 | |
| | 4 | 主体的・対話的で深い学びを実現する指導言 | |
| | 5 | 主体的・対話的で深い学びを実現する学習形態 | |
| | 6 | 教育評価・学習評価と授業・保育の振り返り | |
| | 7 | 学習指導案・指導計画の作成 | |
| | 8 | 前時までのまとめ、ICT活用の意義 | |
| | 9 | 情報活用能力(情報モラルを含む)の内容と育成 | |
| | 10 | プログラミング教育の考え方、外部人材・機関との連携 | |
| | 11 | 遠隔教育・オンライン教育の考え方と方法 | |
| | 12 | 様々なICTに支えられた学校教育(校務、環境整備) | |
| | 13 | 指導・評価における教育データの利活用と教育情報セキュリティ | |
| | 14 | 各教科等におけるICT活用の事例と方法 | |
| | 15 | ICTの基本的な操作に関する指導 | |
| テキスト・参考書 | テキスト:なし 参考書は、『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、『小学校学習指導要領解説(総則編)』、『中学校学習指導要領解説(総則編)』、『高等学校学習指導要領解説(総則編)』(すべて、最新版) 田中耕治編『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房。また必要に応じてプリントを配布する。 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 1. 授業への参加度15% 2. 授業での提出物25% 3. 最終試験(または最終レポート)60% | | |

| | | | |
|-----------------------|--|--|----------------------|
| 授業科目名: 教育方法・ICT活用論 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名: 徳岡 慶一、久富 望 |
| | | | 担当形態:クラス分け・オムニバス |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 | | |
| 授業の概要 | これからの社会を担っていく子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法・技術及びICT(情報通信技術)の活用に関する基礎的な項目を取り上げる。あわせて授業及び保育を教師の立場(教える立場)から捉え、教師としての見方・考え方を学ぶことによって、教員としての実践的指導力の基礎を培う。 | | |
| 授業の到達目標 | 教員としての実践的指導力の基礎を培うために、 1. 教育方法・技術に関する基礎的な知識・技能をもとに、教える立場から授業・保育を考えることができる。 2. 教育におけるICT活用の在り方を理解し、ICTを効果的に活用した教育を構想・実践することができる。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | 授業を構成する要素、教えることと学ぶこと(担当:徳岡慶一) | |
| | 2 | 教育目標の設定(担当:徳岡 慶一) | |
| | 3 | 授業・保育の構想と教材研究・教科書分析(担当:徳岡 慶一) | |
| | 4 | 主体的・対話的で深い学びを実現する指導言(担当:徳岡 慶一) | |
| | 5 | 主体的・対話的で深い学びを実現する学習形態(担当:徳岡 慶一) | |
| | 6 | 教育評価・学習評価と授業・保育の振り返り(担当:徳岡 慶一) | |
| | 7 | 学習指導案・指導計画の作成(担当:徳岡 慶一) | |
| | 8 | 前時までのまとめ、ICT活用の意義(担当:久富 望) | |
| | 9 | 情報活用能力(情報モラルを含む)の内容と育成(担当:久富 望) | |
| | 10 | プログラミング教育の考え方、外部人材・機関との連携(担当:久富 望) | |
| | 11 | 遠隔教育・オンライン教育の考え方と方法(担当:久富 望) | |
| | 12 | 様々なICTに支えられた学校教育(校務、環境整備)(担当:久富 望) | |
| | 13 | 指導・評価における教育データの利活用と教育情報セキュリティ(担当:久富 望) | |
| | 14 | 各教科等におけるICT活用の事例と方法(担当:久富 望) | |
| | 15 | ICTの基本的な操作に関する指導(担当:久富 望) | |
| | 試験(または最終レポート) | | |
| テキスト・参考書 | テキスト:なし 参考書は、『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、『小学校学習指導要領解説(総則編)』、『中学校学習指導要領解説(総則編)』、『高等学校学習指導要領解説(総則編)』(すべて、最新版) 田中耕治編『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房。また必要に応じてプリントを配布する。 | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 1. 授業への参加度15% 2. 授業での提出物25% 3. 最終試験(または最終レポート)60% | | |

| | | | |
|----------------------------|--|--|--|
| 授業科目名: 生徒指導・進路指導の理論及び方法 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名: 片山 紀子、神崎 真実、岩本 脩平 担当形態:クラス分け・単独 |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 | | |
| 授業の概要 | <p>生徒指導は、一人一人の児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。</p> <p>進路指導は、児童生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。</p> | | |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒指導の意義や原理を理解する。 2. 全ての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。 3. 児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、チームによる指導・援助も含めた対応の在り方を理解する。 4. 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。 5. 全ての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。 6. 児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーション(授業の概要と到達目標の説明) | |
| | 2 | 生徒指導の意義と原理 | |
| | 3 | チーム学校による生徒指導体制、生徒指導に関する法制度 | |
| | 4 | 児童生徒理解の基本、児童生徒全体への指導 | |
| | 5 | 生徒指導上の課題への理解と対応(1) いじめ、暴力行為等 | |
| | 6 | 生徒指導上の課題への理解と対応(2) 不登校等 | |
| | 7 | 生徒指導上の課題への理解と対応(3) インターネットや性に関する課題、児童虐待等 | |
| | 8 | 生徒指導上の課題への理解と対応(4) その他の生徒指導上の課題 | |
| | 9 | 進路指導・キャリア教育の意義と原理 | |
| | 10 | ガイダンスとしての指導 | |
| | 11 | カウンセリングとしての指導:キャリアパスポート、キャリア・カウンセリング | |
| | 12 | キャリア教育の具体的対応(1) 小学校のキャリア教育 | |
| | 13 | キャリア教育の具体的対応(2) 中学校のキャリア教育 | |
| | 14 | キャリア教育の具体的対応(3) 高等学校のキャリア教育 | |
| | 15 | 家庭・関係機関との連携 | |
| | | 試験または期末レポート | |
| テキスト・参考書 | <p>テキスト:改訂版はじめて学ぶ生徒指導・教育相談(2023年 本間友巳・内田利広編 金子書房)</p> <p>参考書:生徒指導提要(2022年12月 文部科学省)</p> <p>小学校キャリア教育の手引き(2022年3月 文部科学省)</p> <p>中学校・高等学校キャリア教育の手引き(2023年3月 文部科学省)</p> | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 授業への参加態度(小レポート等への評価)(50%)、試験または期末レポート(50%) | | |

| | | | |
|----------------------------|--|--|--|
| 授業科目名: 生徒指導・進路指導の理論及び方法 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数:2単位 | 担当教員名: 西村 佐彩子、神崎 真実 担当形態:クラス分け・オムニバス |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 | | |
| 授業の概要 | <p>生徒指導は、一人一人の児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。</p> <p>進路指導は、児童生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。</p> | | |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒指導の意義や原理を理解する。 2. 全ての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。 3. 児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、チームによる指導・援助も含めた対応の在り方を理解する。 4. 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。 5. 全ての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方や指導の在り方を理解する。 6. 児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方や在り方を理解する。 | | |
| 授業計画 | 回 | 内容 | |
| | 1 | オリエンテーション(授業の概要と到達目標の説明)(担当:西村佐彩子、神崎真実) | |
| | 2 | 生徒指導の意義と原理(担当:西村佐彩子) | |
| | 3 | チーム学校による生徒指導体制、生徒指導に関する法制度(担当:西村佐彩子) | |
| | 4 | 児童生徒理解の基本、児童生徒全体への指導(担当:西村佐彩子) | |
| | 5 | 生徒指導上の課題への理解と対応(1) いじめ、暴力行為等(担当:西村佐彩子) | |
| | 6 | 生徒指導上の課題への理解と対応(2) 不登校等(担当:西村佐彩子) | |
| | 7 | 生徒指導上の課題への理解と対応(3) インターネットや性に関する課題、児童虐待等(担当:西村佐彩子) | |
| | 8 | 生徒指導上の課題への理解と対応(4) その他の生徒指導上の課題(担当:西村佐彩子) | |
| | 9 | 進路指導・キャリア教育の意義と原理(担当:神崎真実) | |
| | 10 | ガイダンスとしての指導(担当:神崎真実) | |
| | 11 | カウンセリングとしての指導:キャリアパスポート、キャリア・カウンセリング(担当:神崎真実) | |
| | 12 | キャリア教育の具体的対応(1) 小学校のキャリア教育(担当:神崎真実) | |
| | 13 | キャリア教育の具体的対応(2) 中学校のキャリア教育(担当:神崎真実) | |
| | 14 | キャリア教育の具体的対応(3) 高等学校のキャリア教育(担当:神崎真実) | |
| | 15 | 家庭・関係機関との連携(担当:神崎真実) | |
| | | 試験または期末レポート | |
| テキスト・参考書 | テキスト:改訂版はじめて学ぶ生徒指導・教育相談(2023年 本間友巳・内田利広編 金子書房) 参考書:生徒指導提要(2022年12月 文部科学省) 小学校キャリア教育の手引き(2022年3月 文部科学省) 中学校・高等学校キャリア教育の手引き(2023年3月 文部科学省) | | |
| 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) | 授業への参加態度(小レポート等への評価)(50%)、試験または期末レポート(50%) | | |

シラバス：教職実践演習

| | | | | | |
|--|---------------|-------------|---|------------------------------|---|
| シラバス：教職実践演習 (中・高) | | 単位数：2単位 | | 担当教員名：岡田 雄樹、黒田 恭史、 清村 百合子 | |
| 科 目 | 教育実践に関する科目 | | | | |
| 履修時期 | 4年次後期 | 履修履歴の把握(※1) | ○ | 学校現場の意見聴取(※2) | ○ |
| 受講者数 | 25人(13クラスで実施) | | | | |
| 教員の連携・協力体制 教職実践演習専門委員会にて全体計画を策定し、担当教員が各専攻の教員と共同して、授業の運営を行っている。学校現場の現状等を取り扱う授業回については、教職経験のある教員や外部講師による講義を実施している。 | | | | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 教師としての使命感、責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、社会的規範性、子ども理解、学級経営、教科・保育内容等の資質や能力を更に向上させる。 | | | | | |
| 授業の概要 本学の体系的な学校教員養成カリキュラムの最終に位置する重要な科目として、一回生からまとめてきた「履修カルテ」等を用いてこれまでの学修を振り返るとともに、教員として必要とされる資質・能力の自己分析や相互分析を通して、各自の「修学達成度」を確認する。また、フィールドワークや模擬授業等の教育実践活動により、教員としての資質・能力の更なる向上を図る。 | | | | | |
| 授業計画 第1回：全体オリエンテーション 第2回：自己分析と課題設定（「履修カルテ」や「教育実習の記録」等を用いた自己分析；本演習における各自の課題設定） 第3回：フィールドワーク1 学校現場等への訪問研究（公開授業の参観等） 第4回：フィールドワーク2 学校現場等への訪問研究（教科別分科会への参加等） 第5回：フィールドワーク3 学校現場等への訪問研究（講演会への参加等） 第6回：全体講義1 学校現場の現状（いじめ問題等）について 第7回：全体講義2 現職教員の経験談（保護者対応等）について 第8回：全体講義3 特別な支援を必要とする子どもへの対応等について 第9回：全体講義4 ICTを活用した授業実践等について 第10回：各専攻プログラム1 フィールドワークの報告、ディスカッション等 第11回：各専攻プログラム2 全体講義の報告、ディスカッション等 第12回：各専攻プログラム3 模擬授業・ICT活用等 第13回：各専攻プログラム4 教材研究・ICT活用等 第14回：各専攻プログラム5 現職教員による経験談等（教科指導等） 第15回：まとめ 自己の省察・評価、相互の評価、総括 | | | | | |
| テキスト 各授業回で必要な資料を配布 | | | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | | | |

小学校・中学校・高等学校学習指導要領、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、生徒指導提要（いずれも最新版）

学生に対する評価

授業での積極性、レポート試験の成績によって、総合的に評価する。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。